

VoIP ROUTER
VR-7000

IP電話対応

電話の使いかた

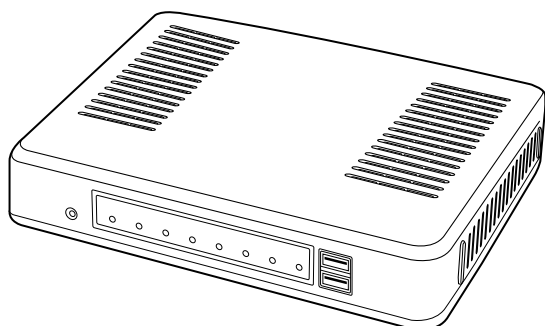
1

機能の割り当て

2

ご参考に

3



Icom Inc.

はじめに

このたびは、本製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

本書では、VP-701を内線電話としてご使用いただくためのVR-7000側(簡易中継サーバー機能)の設定と、VP-701の操作について説明しています。

ご使用の際は、このVP-701ご利用ガイドをよくお読みいただき、本製品の性能を十分発揮していただくとともに、末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

※本書では、ブロードバンド回線への接続設定とIP電話サービスの契約、各機器との接続などが完了しているものとして説明します。

VP-701の操作について

弊社製VoIP機器により、内線電話で使用できる機能や電話操作が、VP-701取扱説明書の記載内容と異なりますので、VR-7000でVP-701をご使用になる場合は、本書にてフレキシブルボタン機能の割り当てや電話操作をご確認ください。

表記について

本書は、次の規則にしたがって表記しています。

「 」表記：本製品の各メニューと、そのメニューに属する設定画面の名称を(「 」)で囲んで表記します。

[]表記：各設定画面の設定項目名を([])で囲んで表記します。

< >表記：設定画面上に設けられたコマンドボタンの名称を(< >)で囲んで表記します。

※本書は、VR-7000 Ver. 1.12(N)のファームウェアを使用して説明しています。

※本書中の画面は、OSのバージョンや設定によって、お使いになるパソコンと多少異なる場合があります。

※本書で掲載しているVP-701の画面はイメージであるため、実際の画面とは異なる場合があります。

※本書では、パナソニック社製IP電話機(KX-UT123N、KX-UT136N)を「KX-UTシリーズ」と表記させていただいておりますので、あらかじめご了承ください。

※本製品の仕様、外観、その他の内容については、改良のため予告なく変更されることがあり、本書の記載とは一部異なる場合があります。

登録商標について

©アイコム株式会社、アイコム、Icom Inc.、アイコムロゴ、WAVEMASTERは、アイコム株式会社の登録商標です。

©Microsoft、Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

©Adobe、Adobe Readerは、Adobe Systems Incorporated(アドビシステムズ社)の登録商標です。

©その他、本書に記載されている会社名、製品名およびサービス名は、各社の商標および登録商標です。

この章では、
VP-701を使う前に知っておいていただきたい操作について説明します。

1. 電話をかけるには(外線発信)	4
2. 電話がかかってきたときは(外線着信)	7
3. 自分以外にかかってきた電話に応答するには(代理応答)	8
4. 発信履歴からかけなおすには(リダイヤル)	9
5. 着信履歴からかけるには	10
6. 電話帳に登録するには	11
7. 文字を入力するには	12
各キーの文字割り当て	13
8. 電話帳から電話をかけるには	14
9. ワンタッチで電話をかけるには	15
10. 通話相手に待ってもらうときは(自己保留)	16
11. 電話を取り次ぐには(パーク保留/応答)	17
12. 電話を取り次ぐには(転送)	21
13. 内線で通話するには(内線発信)	23
14. 不在や通話中などで応答できないときは	25

1 電話の使いかた

1. 電話をかけるには(外線発信)

空いている外線を自動的に選んで電話をかけます。

空いている外線を選んで電話をかける

① 受話器を上げる

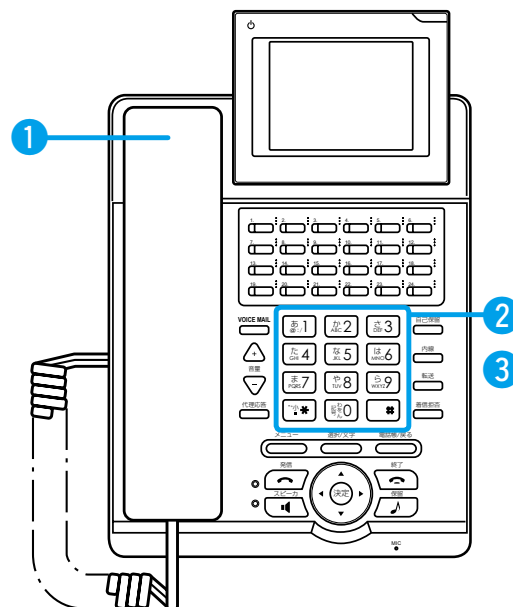
「ツーツー」と内線発信音が聞こえます。
※<スピーカ>を押しても同様に操作できます。

② 外線発信キー「0」(VR-7000出荷時の設定)を押す

「ツー」と外線発信音が聞こえ、使用する<外線キー>が点灯(緑)します。

③ 電話番号をダイヤルする

「#」(VP-701出荷時の設定)を最後に押すと、すぐに発信できます。



使用できる外線がないときは

押した外線発信キー「0」(VR-7000出荷時の設定)がそのまま電話番号と扱われますので、しばらくしてからかけなおしてください。

受話器を上げて「ツー」と聞こえるときは

オフフック回線捕捉が「外線」になっていますので、外線発信キー「0」(VR-7000出荷時の設定)を押す必要がありません。

スピーカで相手の声を聞くには

受話器で通話中に<スピーカ>を押すと、ハンズフリーで通話できるようになります。

※このとき、受話器を置いても通話は切れませんが、受話器を置いた状態で、もう一度<スピーカ>を押すと、通話を切断しますのでご注意ください。

※ハンズフリーでの通話から受話器での通話に戻るときは、状態に応じて、下記の操作をしてください。

◎受話器を上げた状態からであれば、もう一度<スピーカ>を押します。

◎受話器を置いた状態からであれば、受話器を上げます。

1 電話の使いかた

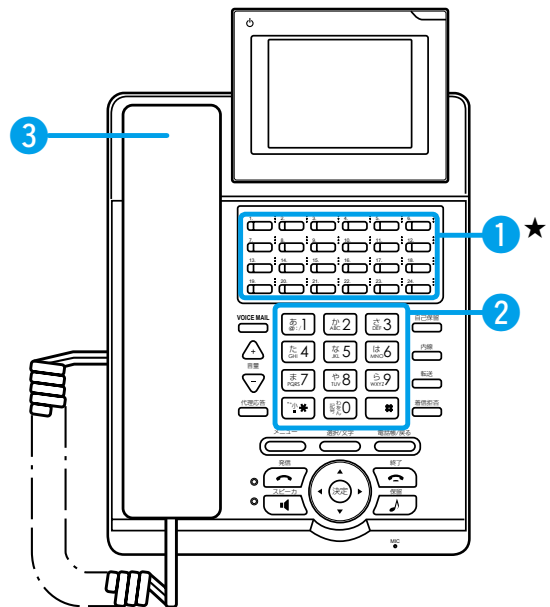
1. 電話をかけるには(外線発信)(つづき)

使用する外線を指定して電話をかけます。

★あらかじめVR-7000側で、VP-701のフレキシブルボタンに割り当てた〈外線キー〉(P39)を操作します。

使用する外線を選んで電話をかける

- 1 消灯している〈外線キー〉を押す
「ツーン」と外線発信音が聞こえ、〈外線キー〉が点灯(緑)します。
- 2 電話番号をダイヤルする
「#」(VP-701出荷時の設定)を最後に押すと、すぐに発信できます。
- 3 受話器を上げる
※〈スピーカ〉を押す、または〈発信〉を押しても同様に操作できます。



〈外線キー〉を押しても「ツーン」という発信音が聞こえないときは
その〈外線キー〉は使用できません。

〈外線キー〉が点灯(赤)のときは
ほかの電話機で外線を使用中のため、その〈外線キー〉を押して電話をかけることはできません。

受話器を上げてから電話をかけるには
受話器を上げてから、〈外線キー〉を押します。

スピーカで相手の声を聞くには
受話器で通話中に〈スピーカ〉を押すと、ハンズフリーで通話できるようになります。
※このとき、受話器を置いても通話は切れませんが、受話器を置いた状態で、もう一度〈スピーカ〉を押すと、通話を切断しますのでご注意ください。

※ハンズフリーでの通話から受話器での通話に戻るときは、状態に応じて、下記の操作をしてください。

- ◎受話器を上げた状態からであれば、もう一度〈スピーカ〉を押します。
- ◎受話器を置いた状態からであれば、受話器を上げます。

1 電話の使いかた

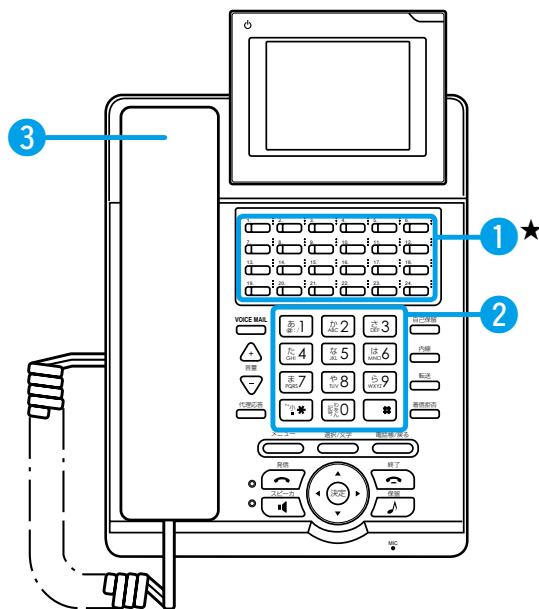
1. 電話をかけるには(外線発信)(つづき)

受話器を置いたままでも、電話をかけられます。

★あらかじめVR-7000側で、VP-701のフレキシブルボタンに割り当てた〈外線キー〉(☎P39)を操作します。

受話器を置いたまま電話をかける

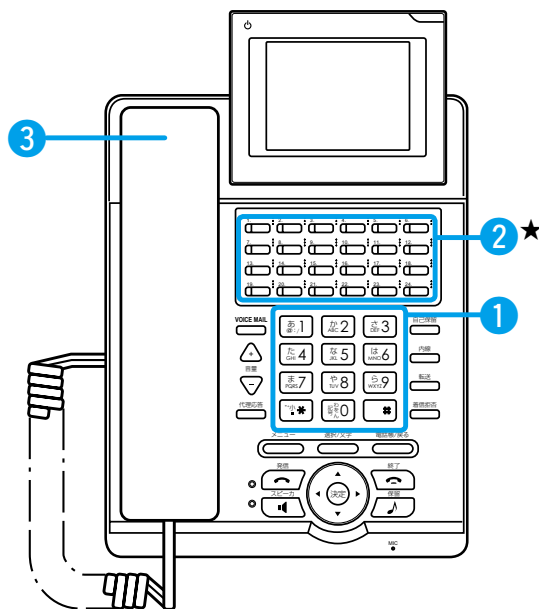
- 1 消灯している〈外線キー〉を押す
「ツーン」と外線発信音が聞こえ、〈外線キー〉が点灯(緑)します。
- 2 電話番号をダイヤルする
「#」(VP-701出荷時の設定)を最後に押すと、すぐに発信できます。
- 3 相手の声がスピーカーから聞こえたら、受話器を上げる



電話番号を確認してから電話をかける

下記の手順は、外線発信キーをVR-7000側で「0」以外に設定している場合に操作できます。

- 1 電話番号をダイヤルする
- 2 消灯している〈外線キー〉を押す
〈外線キー〉が点灯(緑)して、発信します。
- 3 相手の声がスピーカーから聞こえたら、受話器を上げる



相手が応答する前に電話を切るときは

〈スピーカ〉または〈終了〉を押すと、電話が切れ、[スピーカ]ランプ、[発信]ランプが消灯します。

入力した電話番号を消去するとき

〈電話帳/戻る〉を押すと、最後に入力した1文字を消去します。

1 電話の使いかた

2. 電話がかかってきたときは(外線着信)

電話がかかってくると、電話機から着信音が聞こえ、[着信]ランプが点滅(赤)し、〈外線キー〉は高速点滅(赤)になります。

★あらかじめVR-7000側で、VP-701のフレキシブルボタンに割り当てた〈外線キー〉(☞P39)を操作します。

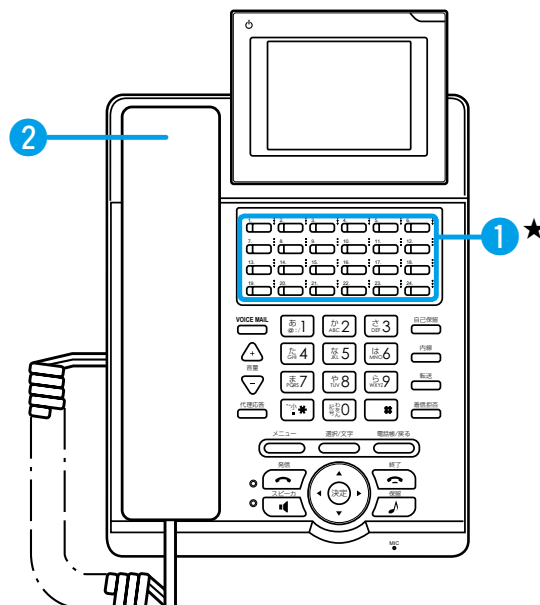
外線からの着信に应答する

1 着信中に

高速点滅(赤)している〈外線キー〉を押す

※複数着信しているときは、ディスプレイに表示されているキー番号をご確認ください。

2 受話器を上げる



不応答転送が設定されているときは(不応答着信)

一定時間内に応答しなかったときは、着信先がほかの電話機に切り替わります。(☞P26)

受話器を上げてから应答するには

受話器を上げてから、高速点滅(赤)している〈外線キー〉を押すと、その〈外線キー〉に割り当てられた回線の着信に应答できます。先に〈外線キー〉を押しても応答できません。

オフフック外線応答が「有効」に設定されているときは、着信音が鳴っている電話機の受話器を上げると、〈外線キー〉を押さずに応答できます。(☞P37)

着信音が鳴っている電話機では

複数の回線や内線が着信している状態のときは、先に〈外線キー〉や〈内線〉を押してから受話器を上げてください。

つづけてかかってきた電話に应答するには

通話中の相手に待っていただく場合は、〈保留〉、または高速点滅(赤)している〈外線キー〉を押します。

このとき、それまでの通話はパーク保留になり、〈外線キー〉が低速点滅(緑)します。(☞P43)

通話が終わっている場合は、高速点滅(赤)している〈外線キー〉を押します。

1 電話の使いかた

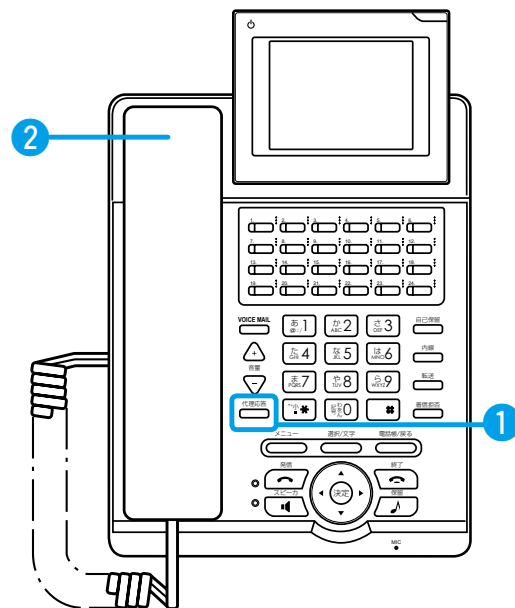
3. 自分以外にかかってきた電話に応答するには(代理応答)

自分以外にかかってきた呼び出し(内線着信/外線着信)に、代わりに応答できます。

※VR-7000出荷時は、VP-701の〈代理応答〉に「グループピックアップ」を割り当て、外線/内線からの着信を代理応答できるように設定されています。(P37)

ピックアップ(代理応答)するには

- 1 自分以外の電話機が着信中に、
〈代理応答〉を押す
- 2 相手の声がスピーカーから聞こえたら、
受話器を上げる



受話器を上げてから代理応答するには

受話器を上げてから、〈代理応答〉を押しても上記と同様に代理応答できます。

ほかの子機への呼び出しに代理応答するには

コールピックアップ特番(VR-7000出荷時の設定：*81)を押して、受話器を上げると代理応答できます。

受話器を上げてから、特番をダイヤルしても上記と同様に代理応答できます。

※特番は、VR-7000側で設定します。(P32)

グループピックアップ(同一グループへの着信)で代理応答するには

グループピックアップ特番(VR-7000出荷時の設定：**)を押して、受話器を上げると代理応答できます。

受話器を上げてから、特番をダイヤルしても上記と同様に代理応答できます。

※特番は、VR-7000側で設定します。(P32)

代理応答したときは

代理応答したときは、相手番号はディスプレイに表示されません。また、代理応答した電話機には、代理応答の着信履歴は保存されません。

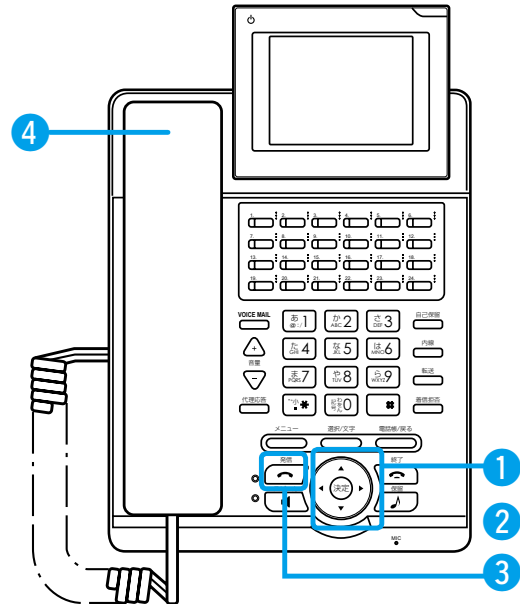
1 電話の使いかた

4. 発信履歴からかけなおすには(リダイヤル)

一度電話をかけた相手に、カーソルキー(右)で電話をかけなおせます。
発信履歴は30件まで記録でき、30件を超えると古い履歴から自動的に削除されます。

発信履歴から電話をかけなおす

- 1 受話器を置いた状態で
カーソルキー(右)を押す
発信履歴画面を表示します。
- 2 カーソルキー(上下)で
かけなおす履歴を選択する
- 3 <発信>を押す
表示された電話番号にダイヤルします。
※<スピーカ>を押す、または受話器を上げても同様に操作できます。
- 4 相手の声がスピーカーから聞こえたら、
受話器を上げる



発信履歴に表示される内容は

相手先の電話番号、電話をかけた日時が表示されます。

使用する外線を選択するときは

手順②の操作後、空いている<外線キー>(消灯)を押します。

直前でかけた電話番号にかけなおすときは(リダイヤル)

カーソル(上)キーを押すと、最後にかけた電話番号にダイヤルします。

発信履歴の電話番号を電話帳に登録するときは

待受画面▶カーソルキー(右)▶発信履歴を選択▶<メニュー>▶[1]を押します。
表示された画面で、名前やヨミガナなどを入力し<決定>を押すと、個別電話帳に登録されます。
電話帳の登録については11ページ、文字入力については12ページをご覧ください。

発信履歴の電話番号を消去するときは

待受画面▶カーソルキー(右)▶発信履歴を選択▶<メニュー>▶[2]を押します。

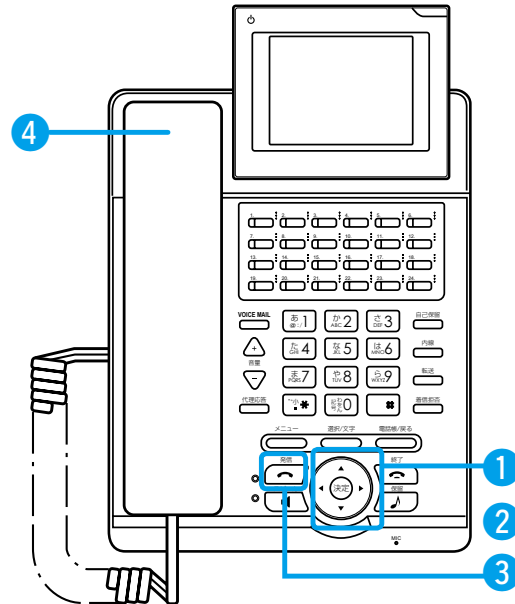
1 電話の使いかた

5. 着信履歴からかけるには

電話をかけてきた相手に、カーソルキー(左)で電話をかけなおせます。
着信履歴は60件(不在・通話)まで記録でき、60件を超えると古い履歴から自動的に削除されます。

着信履歴から電話をかけなおす

- 1 受話器を置いた状態で
カーソルキー(左)を押す
着信履歴画面を表示します。
- 2 カーソルキー(上下)で
かけなおす履歴を選択する
- 3 <発信>を押す
表示された電話番号にダイヤルします。
※<スピーカ>を押す、または受話器を上げても同様に操作できます。
- 4 相手の声がスピーカーから聞こえたら、
受話器を上げる



着信履歴に記録される内容は

相手先の電話番号、電話がかかってきたときの時間と通話時間が記録されます。

使用する外線を選択するときは

手順②の操作後、空いている<外線キー>(消灯)を押します。

着信履歴の電話番号を電話帳に登録するときは

待受画面▶カーソルキー(左)▶着信履歴を選択▶<メニュー>▶[1]を押します。
表示された画面で、名前やヨミガナなどを入力し<決定>を押すと、個別電話帳に登録されます。
個別電話帳の登録については11ページ、文字入力については12ページをご覧ください。

着信履歴の電話番号を消去するときは

待受画面▶カーソルキー(左)▶着信履歴を選択▶<メニュー>▶[2]を押します。

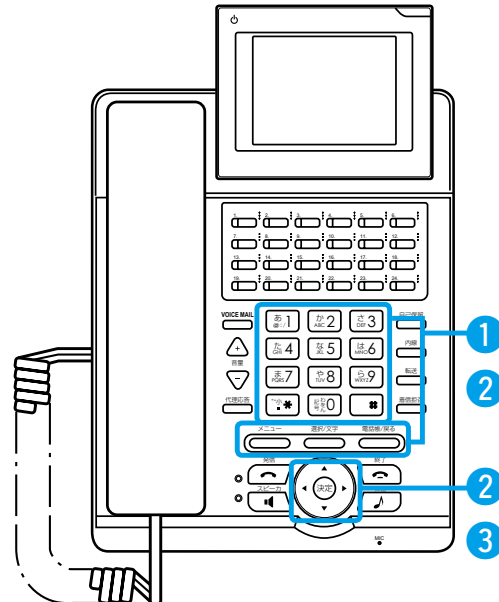
1 電話の使いかた

6. 電話帳に登録するには

VP-701で使用できる電話帳は、VR-7000側で設定する共通電話帳(最大300件)、設定グループ電話帳(最大100件)と、VP-701ごとに登録できる個別電話帳(最大599件)で構成されています。

個別電話帳に登録する

- 1 待受画面▶〈電話帳/戻る〉▶[2]を押す
電話番号登録画面を表示します。
- 2 電話番号登録画面で
名前(全角15/半角30文字)、
ヨミガナ(全角15/半角30文字)、
短縮番号(401～999)、
電話番号(22桁以内)を入力する
短縮番号には、401番号以降の空いている小さい数字が自動的に入ります。
※短縮番号を削除すると、登録した電話帳を編集できなくなりますのでご注意ください。
- 3 カーソルキーで
外線/内線(回線捕捉用)、
グループ(1～10)を選択し、
〈決定〉を押す
登録されると、電話帳画面を表示します。
※グループ名は、グループ管理画面で変更できます。



ヨミガナについて

電話帳を検索するときに使用しますので、必ず入力してください。

登録されている電話帳を確認するには

〈電話帳/戻る〉を押して、検索方法を選択し、電話帳を検索すると登録内容を表示できます。

登録した内容を変更するには

電話帳の登録内容が表示された状態で〈メニュー〉を押します。
表示されるメニューから「編集」を選択して、〈決定〉を押すと、編集できます。

登録されている電話帳を削除するには

電話帳の登録内容が表示された状態で〈メニュー〉を押します。
表示されるメニューから「削除」を選択して、〈決定〉▶「はい」▶〈決定〉を押すと削除されます。

グループ名を登録するには

電話帳のグループに任意の名称を設定できます。

- 1 待受画面▶〈電話帳/戻る〉▶[3]を押す
- 2 グループ番号(1～10)▶〈メニュー〉▶[1]▶を押す
- 3 名前(全角13文字/半角26文字以内)を入力し、〈メニュー〉を押して変換し、〈決定〉を押す



(※表示例は、カタカナ検索画面です。)



(※表示例は、グループ名称設定画面です。)

1 電話の使いかた

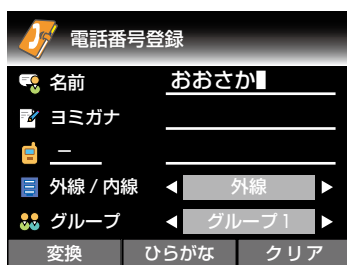
7. 文字を入力するには

電話帳などで、漢字、ひらがな、カタカナ、半角英文字(大/小)、半角数字を入力できます。

漢字を入力する

例) 電話番号登録画面で名前「大阪」を入力する場合

- 1 入力画面で〈選択/文字〉を押し、
入力モードを選択する
電話番号登録画面を表示します。
- 2 入力したい文字が割り当てられた
ダイヤルキーを押す (P13)

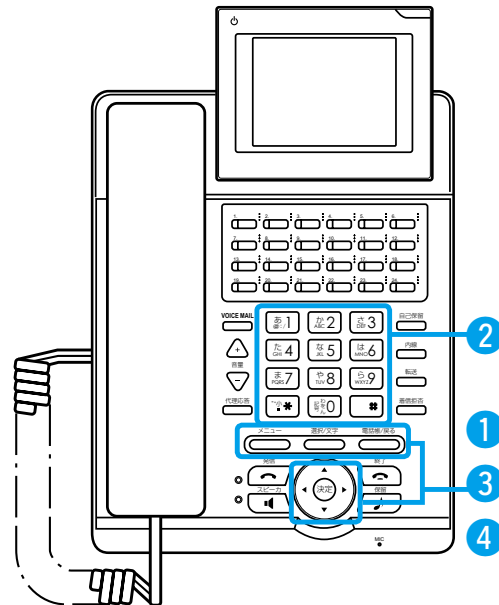


カタカナ、英字、数字モードでは表示された文字が入力されます。

- 3 〈メニュー〉を押す
変換候補一覧を表示します。

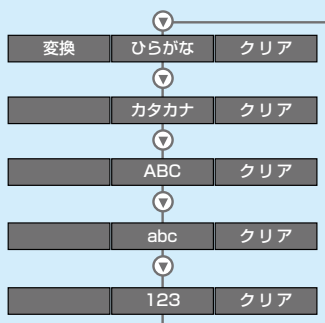


- 4 カーソルキーで
変換したい文字を選択し、〈決定〉を押す



入力モードについて

入力画面では〈選択/文字〉を押すたびに、入力モードが切り替わります。



1 電話の使いかた

7. 文字を入力するには(つづき)

各キーの文字割り当て

1つのキーに複数の文字が割り当てられています。キーを繰り返し押して、目的の文字を表示します。

例) 漢字/ひらがなモードで

を 1回→2回→3回→4回→5回→6回…
あ い う え お あ…

キー	ひらがな	カタカナ	英字(大)	英字(小)	数字
	あいうえおあいうえお	アイウエオアイウエオ	@:/	@:/	1
	かきくけこ	カキクケコ	ABC	abc	2
	さしすせそ	サシスセソ	DEF	def	3
	たちつとつ	タチツテトツ	GHI	ghi	4
	なにぬねの	ナニヌネノ	JKL	jkl	5
	はひふへほ	ハヒフヘホ	MNO	mno	6
	まみむめも	マミムメモ	PQRS	pqrs	7
	やゆよやゆよ	ヤユヨヤユヨ	TUV	tuv	8
	らりるれろ	ラリルレロ	WXYZ	wxyz	9
	わをん。、— <u>わ</u>	ワラン。、— <u>わ</u>	※1	※1	0
	^(濁点)^ (半濁点) 大文字と小文字の切り替え	^(濁点)^ (半濁点) 大文字と小文字の切り替え	※2	※2	※3
	—	—	#()[]	#()[]	※3

※1 「- (ハイフン)」、「_ (アンダーライン)」、「 (スペース)」の半角文字を表示します。

※2 「* (アスタリスク)」、「. (ピリオド)」、「, (カンマ)」の半角文字を表示します。

※3 数字モードの「* (アスタリスク)」、「#」は、電話番号を登録するときだけ入力できます。

濁点、半濁点の入力や大文字と小文字の切り替えは、文字を入力したあとに、* (アスタリスク)を押します。

例) つ→っ→づ→つ は→ば→ぱ→は

1 電話の使いかた

8. 電話帳から電話をかけるには

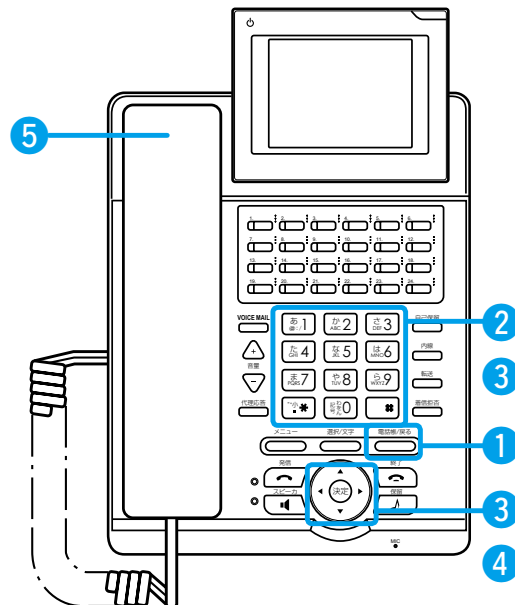
登録してある電話帳を利用して電話をかけます。

電話帳は、短縮番号、ヨミガナ、電話番号、グループ番号検索の4つの方法で検索できます。

電話帳からかける

例) 短縮番号検索でかける場合

- 1 待受画面で
〈電話帳/戻る〉を押す
電話帳画面を表示します。
- 2 [1][1]を押す
短縮番号検索画面を表示します。
- 3 検索したい短縮番号を入力し、
〈決定〉を押す
検索結果一覧を表示します。
- 4 カーソルキー(上下)で
電話番号を選択する
- 5 受話器を上げる
※〈スピーカ〉を押す、または〈発信〉を押しても同様に操作できます。



使用する外線を選択するときは

手順④の操作後、空いている〈外線キー〉*(消灯)を押します。

★あらかじめVR-7000側で、VP-701のフレキシブルボタンに割り当てた〈外線キー〉(※P39)を操作します。

ヨミガナ(行)を検索するには

手順②で、[1][2]を押して、表示されたヨミガナ検索画面で50音の行(あ~わ)に対応しているダイヤルキーを押します。
〈決定〉を押すと、入力した文字からはじまる電話帳を一覧表示します。

グループを検索するには

手順②で、[1][4]を押して、表示されたグループ検索画面でグループ番号を押します。
〈決定〉を押すと、グループに登録された電話帳を一覧表示します。

あらかじめ短縮番号がわかっているときは

電話帳に登録された短縮番号(3桁)をダイヤルし、最後の番号を1秒以上長押しすると、登録した電話番号に電話をかけます。
※短縮番号(3桁)の上位0、00は、省略してダイヤルできます。

たとえば、短縮番号「034」の場合、「34」をダイヤルし、最後の「4」を1秒以上長押しします。

1 電話の使いかた

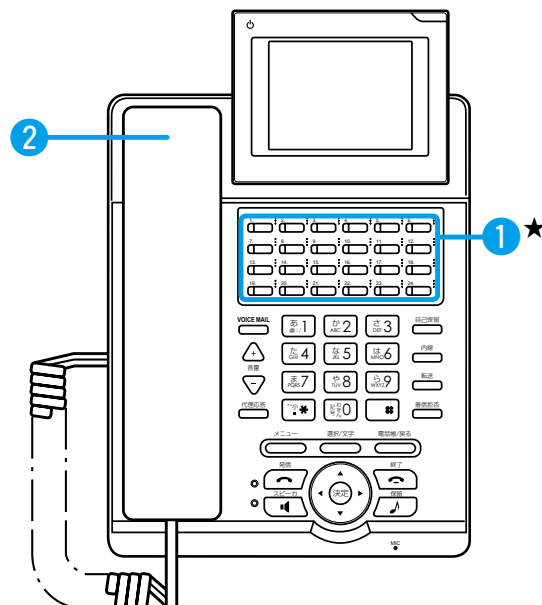
9. ワンタッチで電話をかけるには

よくかける相手の電話番号を〈ワンタッチ〉に登録しておくことで、簡単に電話をかけられます。

★あらかじめVR-7000側で、VP-701のフレキシブルボタンに割り当てた〈ワンタッチ〉(P39)を操作して、ワンタッチでかける相手先の電話番号や特番をVP-701側で登録します。

ワンタッチで電話をかける

- 1 〈ワンタッチ〉を押す
- 2 相手の声がスピーカーから聞こえたら、受話器を上げる



ワンタッチに登録するには

VP-701ごとに、ワンタッチで発信できる電話番号を登録できます。

- 1 待受画面▶〈メニュー〉▶[9]▶[1]▶[2]を押す
- 2 カーソルキー(左右)でワンタッチ機能が割り当てられたキー番号を選択する
- 3 [番号]に電話番号を入力し、「外線/内線」を設定して〈決定〉を押す

ワンタッチに登録できる番号は

相手先の電話番号、VR-7000で設定した特番(不在転送/不応答転送/話中転送/昼夜切替など)が登録できます。

ワンタッチに設定されているフレキシブルボタンを確認するときは

待受画面▶〈メニュー〉▶[9]▶[1]▶[2]を押すと、フレキシブルボタン設定画面で各キーの機能の割り当てを確認できます。



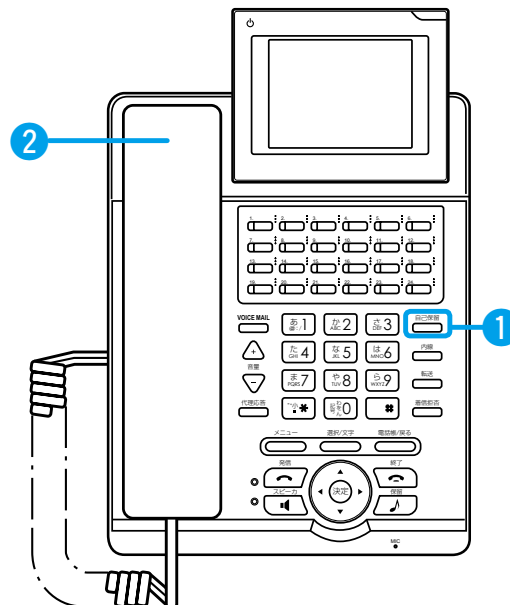
1 電話の使いかた

10. 通話相手に待ってもらうときは(自己保留)

しばらく待ってもらうときには自己保留にします。通話相手には保留音が流れます。

ほかの電話機で取れないように保留する

- 1 通話中に
〈自己保留〉を押す
保留した電話機のスピーカーから保留音が流れます。
- 2 受話器を置く
保留を解除するときは、受話器を上げます。



〈保留〉を押したときは

手順①で〈自己保留〉を押さずに〈保留〉を押したときは、ほかの電話機で応答できる「パーク保留」になり、〈パーク〉★が低速点滅(緑)します。

保留を解除するときは、低速点滅(緑)している〈パーク〉を押してください。

※外線で通話中のときは、外線保留になり、〈外線キー〉★が低速点滅(緑)します。

★あらかじめVR-7000側で、VP-701のフレキシブルボタンに割り当てた〈パーク〉、〈外線キー〉(P39)を操作します。

〈自己保留〉を押して受話器を置かなかったときは

〈自己保留〉を押すと、保留を解除できます。

1 電話の使いかた

1.1. 電話を取り次ぐには(パーク保留/応答)

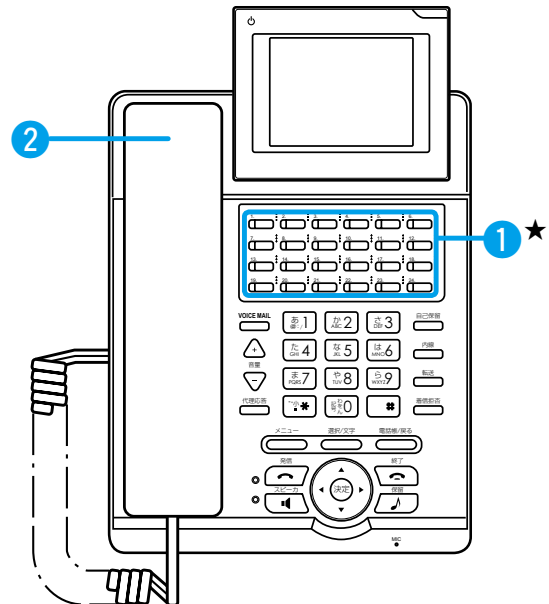
通話中の電話をほかの電話機で出られるようにパーク保留します。

外線通話中の場合は、点灯(緑)している〈外線キー〉を押しても同様に保留できます。

★あらかじめVR-7000側で、VP-701のフレキシブルボタンに割り当てた〈パーク〉、〈外線キー〉(☎P39)を操作します。

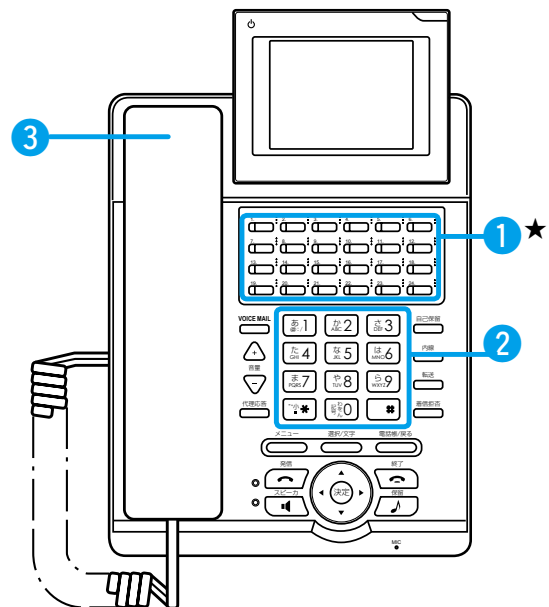
パーク保留して口頭で伝える(転送元)

- 1 通話中に
消灯している〈パーク〉を押す
〈パーク〉が低速点滅(緑)して、相手には保留音が流れます。
【外線通話中の場合】
点灯(緑)している〈外線キー〉を押しても同様に保留できます。
- 2 受話器を置く
ほかの電話機では、保留されたキーが低速点滅(赤)します。
- 3 保留したキー番号を口頭で直接伝える



パーク保留して電話で伝える(転送元)

- 1 通話中に
消灯している〈パーク〉を押す
〈パーク〉が低速点滅(緑)して、相手には保留音が流れます。
【外線通話中の場合】
点灯(緑)している〈外線キー〉を押しても同様に保留できます。
- 2 転送先の内線番号をダイヤルする
ほかの電話機では、保留されたキーが低速点滅(赤)します。
- 3 転送先の応答を確認したら、保留したキー番号を伝え、受話器を置く



ほかの電話機が本製品以外のときは

特番操作でパーク保留/応答する場合は、「パーク保留特番(VR-7000出荷時の設定：*90(保留)/*91(応答))+パーク番号(01~24)」をダイヤルします。

※VP-701では〈外線キー〉による外線保留ができますが、VP-701以外の電話機では外線保留できません。

VP-701以外の電話機から外線保留に回答する場合は、「外線キー応答特番(VR-7000出荷時の設定：*92)+外線保留した〈外線キー〉のキー番号(01~24)」をダイヤルします。

※設定グループが外線保留した電話機と異なる場合は、回答できません。(☎P33)

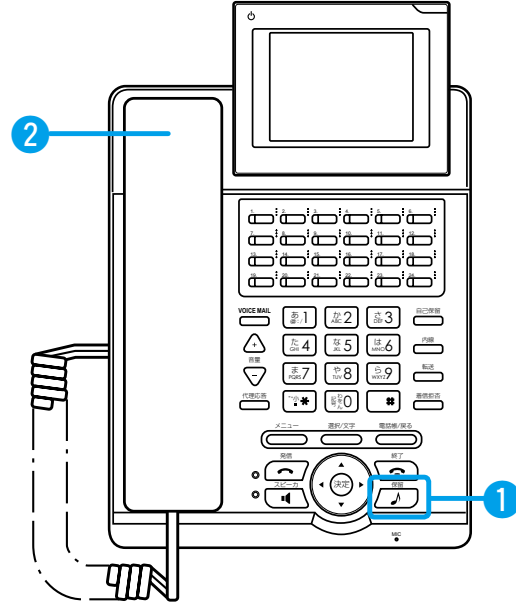
1 電話の使いかた

1.1. 電話を取り次ぐには(パーク保留/応答) (つづき)

通話中に〈保留〉を押すと、空いているフレキシブルボタンでパーク保留できます。

保留して口頭で伝える(転送元)

- 1 通話中に〈保留〉を押し、
緑点滅したキー番号を確認する
外線で通話中の場合は〈外線キー〉、内線で通話中の場合は〈パーク〉が低速点滅(緑)します。
相手には保留音が流れます。
- 2 受話器を置く
ほかの電話機では、保留されたキーが低速点滅(赤)します。
- 3 低速点滅(緑)しているキー番号を口頭で直接伝える



通話中に〈保留〉を押したときの動作について

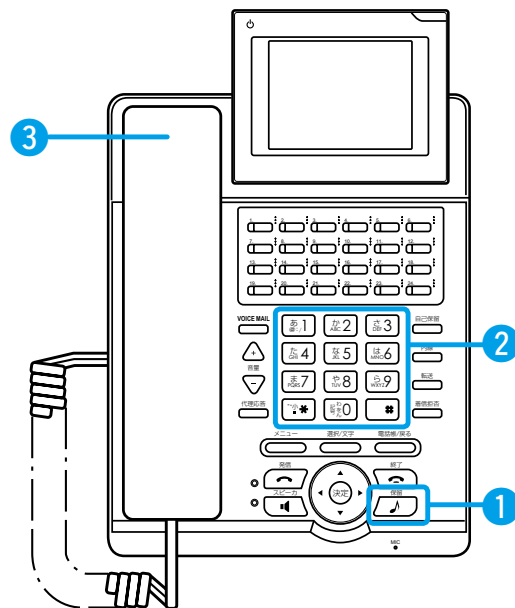
- ・外線で通話中に〈保留〉を押す
外線保留になり、通話中の〈外線キー〉*が低速点滅(緑)になります。
 - ・内線で通話中に〈保留〉を押す
パーク保留になり、〈パーク〉*が低速点滅(緑)します。
※パーク機能をフレキシブルボタンに割り当てていない場合、また空いている〈パーク〉(消灯)がない場合は、内線で通話中に〈保留〉を押してもパーク保留になりません。
内線通話のままになります。
- ★あらかじめVR-7000側で、VP-701のフレキシブルボタンに割り当てた〈外線キー〉、〈パーク〉(P39)が動作します。

1 電話の使いかた

1.1. 電話を取り次ぐには(パーク保留/応答) (つづき)

保留して電話で伝える(転送元)

- 1 通話中に〈保留〉を押し、
低速点滅(緑)したキー番号を確認する
外線で通話中の場合は〈外線キー〉、内線で通話中の場合は〈パーク〉が低速点滅(緑)します。
相手には保留音が流れます。
- 2 転送先の内線番号をダイヤルする
ほかの電話機では、保留されたキーが低速点滅(赤)します。
- 3 転送先の応答を確認したら、保留したキー番号を伝え、受話器を置く



設定時間内に転送先が応答できなかったとき

・〈外線キー〉で保留した場合

転送元の電話機にリコール(再呼出)し、転送元のディスプレイに「相手先の電話番号(外線)」と「キー番号」が表示され、〈外線キー〉★が高速点滅(緑)になります。

・〈パーク〉で保留した場合

転送元の電話機にリコール(再呼出)し、転送元のディスプレイに「**RECALL**」と「キー番号」が表示され、〈パーク〉★が低速点滅(緑)になります。

※リコール開始から1分経過しても、転送元が通話中のときは、保留中の通話は切断されますのでご注意ください。

※設定時間(パークリコール時間)は、VR-7000側で設定します。(VR-7000出荷時の設定：120秒)

★あらかじめVR-7000側で、VP-701のフレキシブルボタンに割り当てた〈外線キー〉、〈パーク〉(P39)が動作します。

1 電話の使いかた

1.1. 電話を取り次ぐには(パーク保留/応答) (つづき)

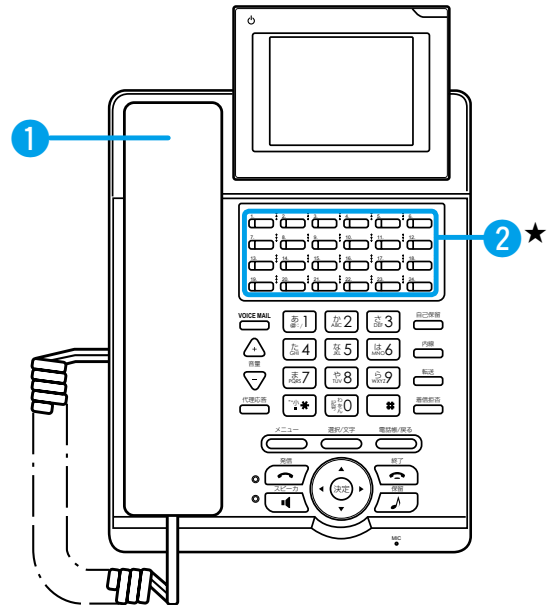
ほかの電話機でパーク保留した電話に応答するときは、低速点滅(赤)している〈パーク〉を押します。

※外線保留中の場合は、低速点滅(赤)している〈外線キー〉を押しても同様に応答できます。

★あらかじめVR-7000側で、VP-701のフレキシブルボタンに割り当てた〈パーク〉、〈外線キー〉(☞P39)を操作します。

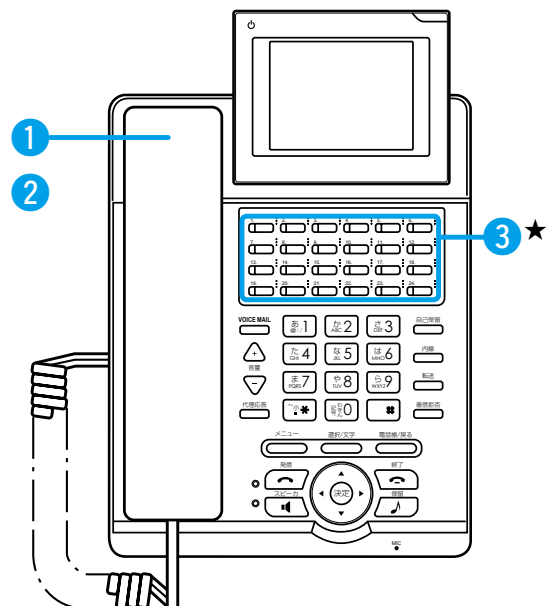
パーク応答する(転送先)

- 1 受話器を上げる
- 2 伝えられた番号のフレキシブルボタンを押す
キーを押してから、受話器を上げると、すぐに応答できます。



電話でパークを伝えられたら(転送先)

- 1 転送元から保留されたキー番号を確認したら、受話器を置く
- 2 受話器を上げる
- 3 伝えられた番号のフレキシブルボタンを押す
キーを押してから、受話器を上げると、すぐに応答できます。



ほかの電話機が本製品以外のときは

特番操作でパーク保留/応答する場合は、「パーク保留特番(VR-7000出荷時の設定：*90(保留)/*91(応答))+パーク番号(01~24)」をダイヤルします。

※VP-701では〈外線キー〉による外線保留ができますが、VP-701以外の電話機では外線保留できません。

VP-701以外の電話機から外線保留に応答する場合は、「外線キー応答特番(VR-7000出荷時の設定：*92)+外線保留した〈外線キー〉のキー番号(01~24)」をダイヤルします。

※設定グループが外線保留した電話機と異なる場合は、応答できません。(☞P33)

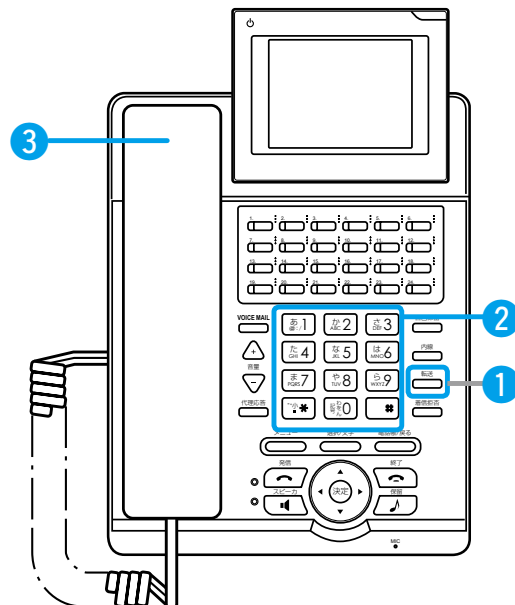
1 電話の使いかた

12. 電話を取り次ぐには(転送)

外線や内線での通話を保留してほかの電話機に転送するには、2つの方法があります。

応答を確認して転送する

- 1 通話中に〈転送〉を押す
相手には保留音が流れます。
- 2 転送先の電話番号をダイヤルする
「#」(VP-701出荷時の設定)を最後に押すと、すぐに発信できます。
※〈転送〉を押すと、元の通話に戻ります。
- 3 転送先の応答を確認し、受話器を置く
保留中の相手と転送先が通話に戻ります。



転送を中止するときは

転送先が応答する前に〈転送〉を押すと、転送を中止し元の通話に戻ります。

転送できなかったときは

転送先が応答できなかったときは、転送元のディスプレイに「話中」を表示します。

※〈転送〉を押すと、元の通話に戻ります。

外線に転送するときは

通話中に〈転送〉▶空いている〈外線キー〉(消灯)▶転送先の電話番号をダイヤル▶〈発信〉を押します。

転送先の応答を確認したら、受話器を置きます。

外線に転送したときは

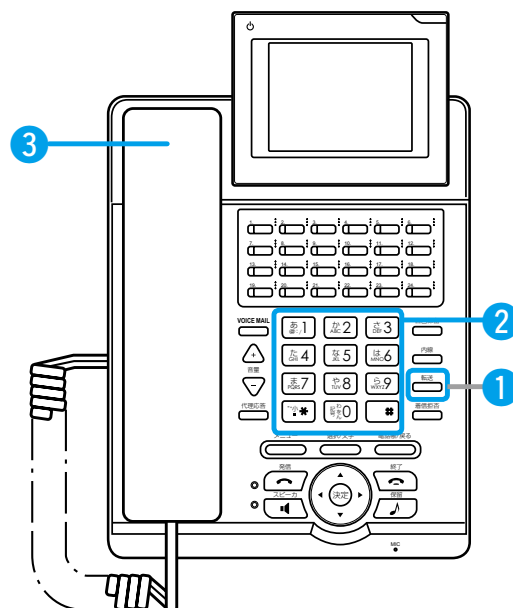
転送した電話が終わるまで、こちらから転送先までの通話料金がかかります。

1 電話の使いかた

12. 電話を取り次ぐには(転送) (つづき)

応答を確認しないで転送する

- 1 通話中に〈転送〉を押す
相手には保留音が流れます。
- 2 転送先の電話番号をダイヤルする
「#」(VP-701出荷時の設定)を最後に押すと、すぐに発信できます。
※〈転送〉を押すと、元の通話に戻ります。
- 3 呼出中に受話器を置く
転送先は、保留中の相手から直接呼び出されている状態になります。



転送を中止するときは

転送先が応答する前に〈転送〉を押すと、転送を中止し元の通話に戻ります。

転送できなかったときは

転送先が応答できなかったとき、転送元の内線電話はリコール(再呼出)になります。転送元のディスプレイに「**RECALL**」が表示されます。

※転送元が通話中のときは、保留中の通話は切断されます。

外線に転送するときは

通話中に〈転送〉▶空いている〈外線キー〉(消灯)▶転送先の電話番号をダイヤル▶〈発信〉を押します。

呼出中になったら、受話器を置きます。

外線に転送したときは

転送した電話が終わるまで、こちらから転送先までの通話料金がかかります。

1 電話の使いかた

13. 内線で通話するには(内線発信)

ほかの電話機に内線で電話をかけます。

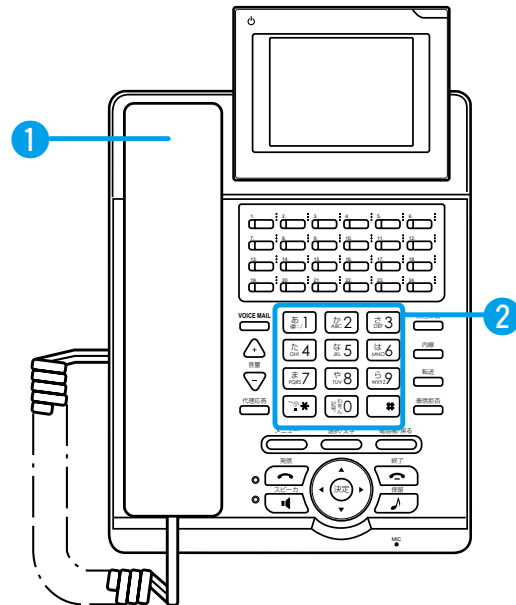
内線で電話をかける

① 受話器を上げる

「ツーツー」と内線発信音が聞こえます。

② 電話番号をダイヤルする

「#」(VP-701出荷時の設定)を最後に押すと、すぐに発信できます。



受話器を上げて「ツー」と聞こえるときは

オフフック回線捕捉が「外線」になっていますので、〈内線〉を押して電話番号をダイヤルします。

内線を選んで電話をかける

① 〈内線〉を押す

「ツーツー」と内線発信音が聞こえます。

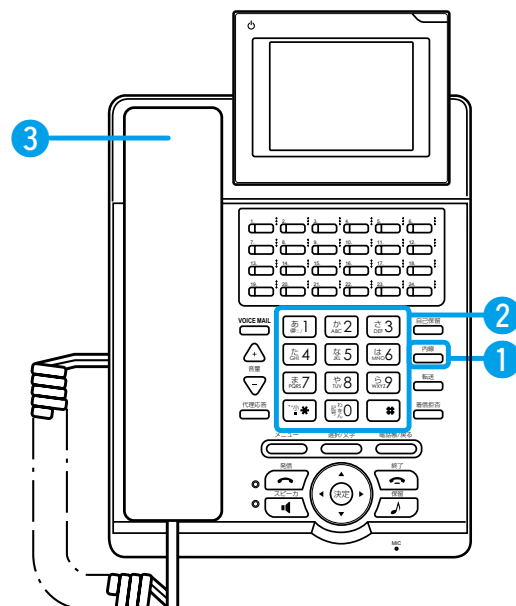
② 電話番号をダイヤルする

「#」(VP-701出荷時の設定)を最後に押すと、すぐに発信できます。

③ 受話器を上げる

〈スピーカ〉を押す、または〈発信〉を押しても同様に操作できます。

※手順①の〈内線〉を押さずに、「電話番号」+「#」をダイヤルした場合は、「電話番号#」として扱われ、発信できませんのでご注意ください。



内線で通話中に外線で電話がかかってきたときに応答するには

通話中の相手に待っていただく場合は、〈パーク〉*(消灯)、または〈保留〉を押して、パーク保留にします。

高速点滅(赤)している〈外線キー〉を押して、その〈外線キー〉*に割り当てられた回線の着信に応答します。

★あらかじめVR-7000側で、VP-701のフレキシブルボタンに割り当てた〈パーク〉、〈外線キー〉(☎P39)を操作します。

1 電話の使いかた

1.3. 内線で通話するには(内線発信) (つづき)

ほかの電話機(VP-701、KX-UTシリーズに限る)に内線で電話をかけ、音声で呼び出します。

★あらかじめVR-7000側で、VP-701のフレキシブルボタンに割り当てた〈音声呼出〉(P39)を操作します。

内線で音声呼出をする

① 受話器を上げる

「ツーツー」と内線発信音が聞こえます。

② 電話番号をダイヤルする

「#」(VP-701出荷時の設定)を最後に押すと、すぐに発信できます。

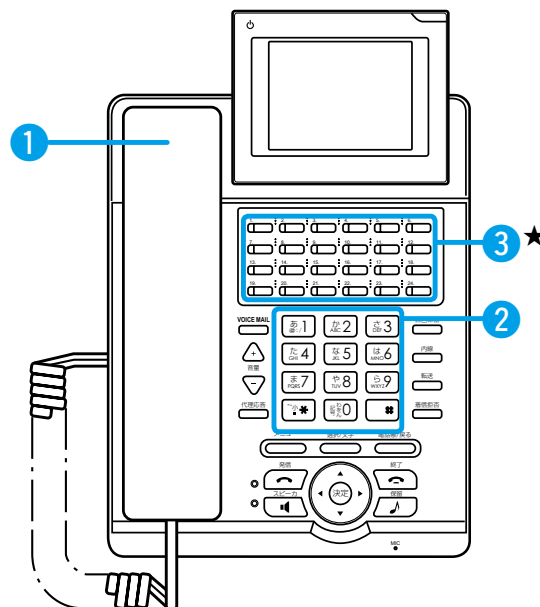
③ 〈音声呼出〉を押す

④ 「ブー」という通知音が聞こえたら、音声で呼び出す

相手の電話機のスピーカーから音声呼出が聞こえます。

※相手先の電話機がKX-UTシリーズの場合、通知音は鳴りません。

手順③で〈音声呼出〉を押したあと、すぐに音声で呼び出しできます。(相手先が話中の場合を除く)



受話器を上げて「ツー」と聞こえるときは

オフフック回線捕捉が「外線」になっていますので、〈内線〉を押して電話番号をダイヤルします。

音声呼出が設定されているフレキシブルボタンを確認するときは

待受画面▶〈メニュー〉▶[9]▶[1]▶[2]を押すと、フレキシブルボタン設定画面で各キーの機能の割り当てを確認できます。

1 電話の使いかた

14. 不在や通話中などで応答できないときは

離席中で不在のときにかかってきた電話をほかの電話機に転送できます。

※内線代表着信時の転送については、VR-7000の「ユーザー設定」画面で設定します。

不在転送機能を設定する

① 受話器を上げる

「ツーツー」と内線発信音が聞こえます。

② 不在転送特番「*94」(VR-7000出荷時の設定)をダイヤルする

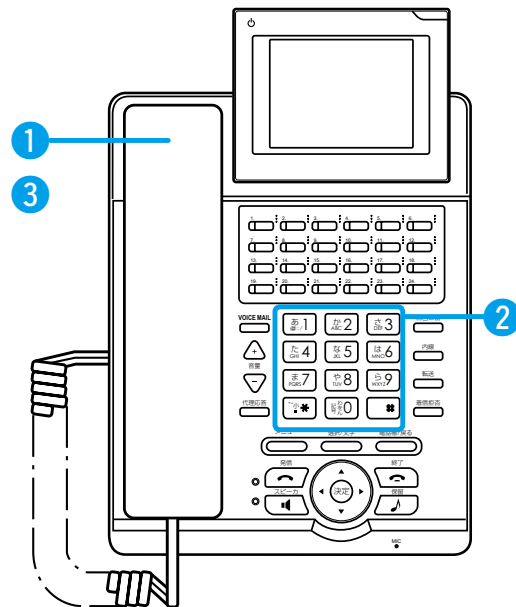
「#」(VP-701出荷時の設定)を最後に押すと、すぐに発信できます。

③ 「不在転送を設定しました」が聞こえたら、受話器を置く

〈不在転送通知〉(P39、P44)が点灯(赤)して、待受画面に戻ります。

※解除するときは、もう一度不在転送特番「*94」をダイヤルして、〈不在転送通知〉の消灯を確認します。

※VR-7000の「ユーザー設定」画面(下図)で、[指定]のラジオボタンをクリックしても、不在転送機能が有効になります。



電話機から不在転送先を設定するには

手順②の特番につづいて、転送先の電話番号をダイヤルすると、指定した転送先に着信が転送されます。

たとえば、転送先が内線301の場合、「*94」+「301」をダイヤルします。

パソコンから不在転送先を設定するには

VP-701ごと転送先の電話番号を、VR-7000の「ユーザー設定」画面で登録できます。(右図参照)

① パソコンから、VR-7000の「ユーザー設定」画面にアクセスして、内線子機に設定された内線番号(ユーザーID)とパスワードを入力して、〈ログイン〉をクリックする

② 転送先になる電話番号(ほかの内線番号や携帯電話の番号など)を、半角数字31桁以内で入力して、〈設定〉を押す

※「ユーザー設定」画面について詳しくは、弊社ホームページに掲載のユーザー設定画面マニュアル(PDFファイル)をご覧ください。

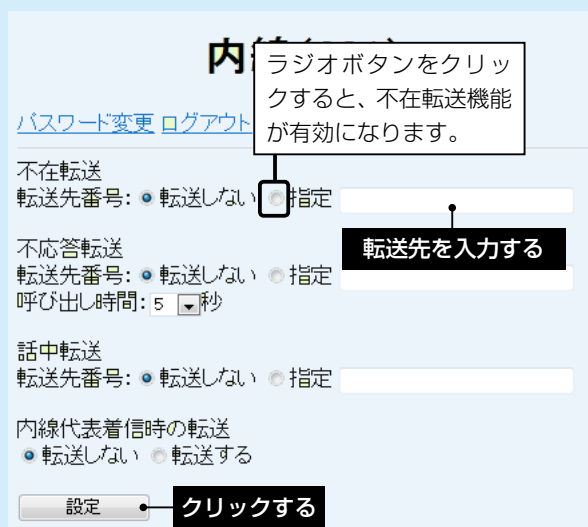
着信拒否を設定しているときは

〈着信拒否〉を押すと、着信拒否機能が有効になり、🚫を待受画面の右上に表示します。

着信拒否機能より不在転送設定が優先され、設定した転送先へ転送します。

この場合、VP-701には着信履歴が残ります。

※着信拒否機能を解除するときは、もう一度〈着信拒否〉を押します。



(※画面の内容は、設定例です。)

1 電話の使いかた

14. 不在や通話中などで応答できないときは(つづき)

設定した呼出時間(VR-7000出荷時の設定：5秒)を経過すると、かかってきた電話をほかの電話機に転送します。
※内線代表着信時の転送については、VR-7000の「ユーザー設定」画面で設定します。

不応答転送機能を設定する

① 受話器を上げる

「ツーツー」と内線発信音が聞こえます。

② 不応答転送特番「*95」(VR-7000出荷時の設定)をダイヤルする

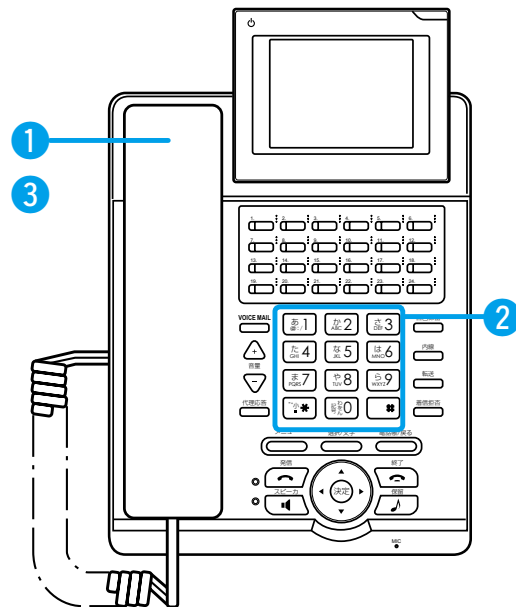
「#」(VP-701出荷時の設定)を最後に押すと、すぐに発信できます。

③ 「不応答転送を設定しました」が聞こえたら、受話器を置く

〈不応答転送通知〉(P39、P44)が点灯(赤)して、待受画面に戻ります。

※解除するときは、もう一度不応答転送特番「*95」をダイヤルして、〈不応答転送通知〉の消灯を確認します。

※VR-7000の「ユーザー設定」画面(下図)で、[指定]のラジオボタンをクリックしても、不応答転送機能が有効になります。



電話機から不応答転送先を設定するには

手順②の特番につづいて、転送先の電話番号をダイヤルすると、指定した転送先に着信が転送されます。
たとえば、転送先が内線301の場合、「*95」+「301」をダイヤルします。

パソコンから不応答転送先を設定するには

VP-701ごとに転送先の電話番号を、VR-7000の「ユーザー設定」画面で登録できます。(右図参照)

① パソコンから、VR-7000の「ユーザー設定」画面にアクセスして、内線子機に設定された内線番号(ユーザーID)とパスワードを入力して、〈ログイン〉をクリックする

② 転送先になる電話番号(ほかの内線番号や携帯電話の番号など)を、半角数字31桁以内で入力して、〈設定〉を押す

※「ユーザー設定」画面について詳しくは、弊社ホームページに掲載のユーザー設定画面マニュアル(PDFファイル)をご覧ください。

着信拒否を設定しているときは

〈着信拒否〉を押すと、着信拒否機能が有効になり、を待受画面の右上に表示します。

内線着信時は、不応答転送設定に関係なく、かかってきたすべての内線電話を拒否するために切断します。

※外線着信時は、着信拒否機能より不応答転送設定が優先され、設定した転送先へ転送します。

※着信拒否機能を解除するときは、もう一度〈着信拒否〉を押します。

(※画面の内容は、設定例です。)

1 電話の使いかた

14. 不在や通話中などで応答できないときは(つづき)

内線通話中に内線からかかってきた電話をほかの電話機に転送できます。

※内線代表着信時の転送については、VR-7000の「ユーザー設定」画面で設定します。

話中転送を設定する

① 受話器を上げる

「ツーツー」と内線発信音が聞こえます。

② 話中転送特番「*96」(VR-7000出荷時の設定)をダイヤルする

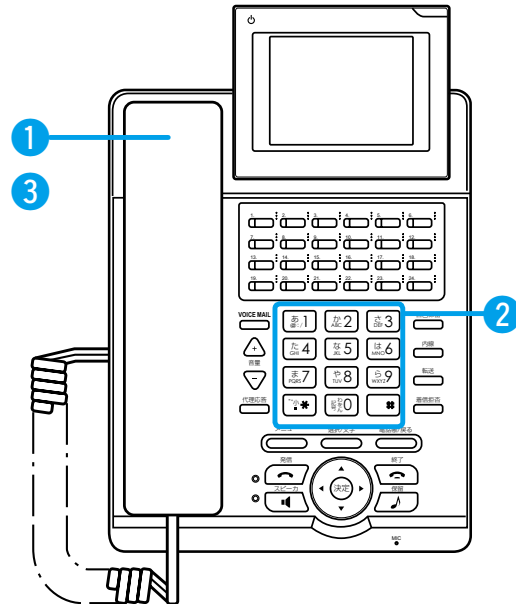
「#」(VP-701出荷時の設定)を最後に押すと、すぐに発信できます。

③ 「話中転送を設定しました」が聞こえたら、受話器を置く

〈話中転送通知〉(P39、P44)が点灯(赤)して、待受画面に戻ります。

※解除するときは、もう一度話中転送特番「*95」をダイヤルして、〈話中転送通知〉の消灯を確認します。

※VR-7000の「ユーザー設定」画面(下図)で、[指定]のラジオボタンをクリックしても、話中転送機能が有効になります。



電話機から話中転送先を設定するには

手順②の特番につづいて、転送先の電話番号をダイヤルすると、指定した転送先に着信が転送されます。たとえば、転送先が内線301の場合、「*96」+「301」をダイヤルします。

パソコンから話中転送先を設定するには

VP-701ごと転送先の電話番号を、VR-7000の「ユーザー設定」画面で登録できます。(右図参照)

① パソコンから、VR-7000の「ユーザー設定」画面にアクセスして、内線子機に設定された内線番号(ユーザーID)とパスワードを入力して、〈ログイン〉をクリックする

② 転送先になる電話番号(ほかの内線番号や携帯電話の番号など)を、半角数字31桁以内で入力して、〈設定〉を押す

※「ユーザー設定」画面について詳しくは、弊社ホームページに掲載のユーザー設定画面マニュアル(PDFファイル)をご覧ください。

話中転送を設定したときは

内線で通話中に、ほかの電話機から内線着信したときだけ、設定した転送先へ転送します。

※内線で通話中の外線着信や外線通話中の内線・外線着信では動作しません。

A screenshot of the VR-7000 user settings screen. The title is "内線(201)". Below the title are links for "パスワード変更" and "ログアウト". There are three main sections: "不在転送" (Call Forwarding), "不応答転送" (Call Forwarding on Busy), and "話中転送" (Call Transfer). Each section has a "転送先番号" (Transfer Number) field with radio buttons for "転送しない" (Do not transfer) and "指定" (Specify). The "話中転送" section has a "指定" radio button selected. Below these sections are "設定" (Settings) and "クリックする" (Click) buttons. A callout box points to the "指定" radio button in the "話中転送" section, stating: "[指定]のラジオボタンをクリックすると、不応答転送機能が有効になります。" (Clicking the [Specify] radio button makes the call forwarding on busy function effective.)

(※画面の内容は、設定例です。)

この章では、

VP-701のフレキシブルボタン設定など、VR-7000側の設定について説明しています。

1. 電話設定について	29
2. 共通設定について	32
■ 特番設定	32
■ グループ設定	33
■ 機種個別設定(VP-701)/着信音設定	34
■ 電話帳設定	35
3. グループ別設定について	37
■ 機種共通設定/機種個別設定(VP-701)	37
4. 子機別設定について	41
■ 内線設定	41

2 機能の割り当て

1. 電話設定について

VR-7000の管理者用設定画面で設定した内容を、子機として登録したVP-701で使用します。

設定内容を更新するときは

電話帳やフレキシブルボタン設定などを変更したときは、VP-701を再起動させて、設定を更新します。

VR-7000からVP-701の再起動を操作するときは、通話などを切断して再起動を開始しますのでご注意ください。

※設定を更新しなかった場合、VP-701は、前回ダウンロードした設定をそのまま使用します。

VR-7000からVP-701の再起動を操作するときは、[電話機のメンテナンス]項目の[状態]欄(☞P33)に「接続済み」が表示されていることをご確認ください。

共通設定

設定画面	設定項目	詳細
特番設定	特番設定	(☞P31)
電話機設定(VP-701)	電話機のメンテナンス	グループ設定(設定グループ1～設定グループ20)
	機種個別設定(VP-701)	音量(送話音量/受話音量)
	着信音設定	外線A～外線C、内線A～内線C、デフォルト内線、リコール
電話帳設定	電話帳[共通]	最大300件

設定グループ別設定

設定画面	設定項目	詳細
電話機設定(VP-701)	機種共通設定	ピックアップグループ番号(半角数字7桁以内) コールピックアップ対象 (外線/内線、外線のみ、内線のみ) グループピックアップ対象 (外線/内線、外線のみ、内線のみ) 指定ピックアップ対象 (外線/内線、外線のみ、内線のみ) 発信規制(無効、発信規制ルール1～発信規制ルール16、外線発信規制)
		機種個別設定(VP-701) ダイヤル待ち時間(1～60(秒)) 外線発信キー(0～9、*、#) 外線捕捉範囲(1～24) オフフック回線捕捉(内線、外線) オフフック外線応答(無効、有効) 着信優先順位(内線優先、外線優先) 外線通話中の内線着信(拒否、許可) 代理応答キー動作 (コールピックアップ、グループピックアップ) 長時間保留の監視時間(30～1800(秒)) 電話帳[共通]の利用(無効、有効) ボタン割当(1～24)(☞P31)
電話帳設定	電話帳[設定グループ1～設定グループ20]	最大100件(設定グループ1～設定グループ20の合計：最大2000件)

子機別設定

設定画面	設定項目	詳細
内線個別設定	内線設定	内線番号(半角数字2～7桁) パスワード(半角英数字31文字以内) 留守電ボックス(ボックス1～ボックス3)

2 機能の割り当て

1. 電話設定について(つづき)

特番設定

VR-7000で設定されている特番は、特に問題がある場合を除いては、出荷時の設定でお使いください。

設定項目	出荷時の設定	詳細
コールピックアップ	*81	ほかの内線子機への呼び出しに代理応答できる番号
グループピックアップ	**	同じ設定グループに所属するほかの内線子機への呼び出しに代理応答できる番号 (指定した設定グループへの呼び出しに代理応答する場合は、特番+ピックアップグループ番号)
指定ピックアップ	*80	指定した内線子機への呼び出しに代理応答できる番号(特番+内線番号)
パーク保留	保留:*90 応答:*91	パーク保留・応答するための番号(特番+パーク番号(01~24))
外線キー応答	応答:*92	外線着信や外線保留に応答するための番号 (特番+外線保留した<外線キー>のキー番号* ¹ (01~24))
音声呼出	*83	ダイヤルした相手(VP-701、KX-UTシリーズの電話機)を音声で呼び出すための番号(特番+内線番号)
不在転送	*94	不在時に、指定した内線子機ごとの転送先に着信を転送するための番号
不応答転送	*95	不応答時に、指定した内線子機ごとの転送先に着信を転送するための番号
話中転送	*96	話中時に、指定した内線子機ごとの転送先に着信を転送するための番号
外線着信転送の切替	*97	外線着信転送の「有効」/「無効」を切り替えるための番号 (特番+外線着信転送通知を割り当てたフレキシブルボタン番号(01~24))
昼夜切替	*98	昼間と夜間で、外線からの着信先を切り替えるための番号 (外線サービスグループを指定する場合は、特番+外線サービスグループ番号(01~08))
留守電の開始と停止	*99	留守番電話機能を開始、または停止するための番号 (留守電ボックスを指定する場合は、特番+留守電ボックス番号(1~3))
留守電の再生	*84	留守番電話操作メニュー(メインメニュー)にログインするための番号(特番+[0]+留守電ボックス番号(1~3))
回線閉塞の開始と停止	*87	外線からの着信を拒否する回線閉塞機能を開始、または停止するための番号 (特番+<外線キー>のキー番号* ¹ (01~24))
着信おまたせの開始と停止	*86	応答できないときに、メッセージを流して相手に待っていただく着信おまたせ機能を開始、または停止するための番号
システム特番* ²	*82 *93 *85 *88 *89	VR-7000のシステム内部で使用するための番号

★¹ VP-701で表示されるキー番号(※P15)は、VR-7000側ではフレキシブルボタン番号(※P39)となります。

★² システム特番は、登録した内線子機からダイヤルする番号ではありません。

2 機能の割り当て

1. 電話設定について(つづき)

ボタン割当(1～24)

設定グループごとに、〈外線キー〉などの機能をフレキシブルボタンに設定します。

設定項目	詳細
ワンタッチ	よく利用する相手先の電話番号、VR-7000で設定した特番などを登録して、ワンタッチの操作で発信できる機能 ※VP-701本体のメニュー画面で任意の番号を設定(※P15)
外線キー	外線発信時に使用する回線(IP回線/ISDN回線/アナログ電話回線)の電話番号や回線グループの選択、および回線の使用状況を確認できる機能
パーク	通話をパーク保留して、どの内線子機からでも応答できる機能
留守電設定通知★ ³	内線子機が使用するボックスについて、留守番電話機能の動作状態を確認できる機能
留守電通知★ ³	内線子機が使用するボックスについて、新しいメッセージがあるか確認できる機能
着信おまかせ通知★ ³	通話中など登録した内線子機が設定した時間内に応答できないときに、メッセージを流して相手に待っていただく機能が設定されているか確認できる機能
不在転送通知★ ³	不在中にかかってきた電話をほかの電話機に転送する機能が設定されているか確認できる機能
不応答転送通知★ ³	電話に応答できないときなど、かかってきた電話をほかの電話機に転送する機能が設定されているか確認できる機能
話中転送通知★ ³	内線通話中にほかの内線がかかってきたときに、登録した電話番号に着信を転送する機能が設定されているか確認できる機能
昼夜切替通知★ ³	あらかじめ登録した外線サービスグループごとに、昼間か夜間かを確認できる機能
外線着信転送通知★ ³	あらかじめ登録した回線(電話番号)に外線からの着信を転送する機能が設定されているか確認できる機能
音声呼出	ダイヤルした相手(VP-701、KX-UTシリーズの電話機)を直接音声で呼び出す機能
未使用	機能の割り当てなし

★³ 通知機能を割り当てたフレキシブルボタンは、ランプで状態表示するだけです。ボタンを押しても、機能の切り替え操作はできません。

2 機能の割り当て

2. 共通設定について

VR-7000の子機として登録する内線電話について設定します。

■特番設定

[PBX設定] → [特番設定]

VR-7000に登録されたすべての内線子機で使用する特番です。

- 1 VR-7000の管理者用設定画面にアクセスする
※アクセス方法については、別紙の「VR-7000設定マニュアル」をご覧ください。
- 2 「PBX設定」メニューをクリックする
「PBX情報」画面を表示します。
- 3 「特番設定」をクリックして、[特番設定]項目で特番を設定する
※特に問題がある場合を除いては、出荷時の設定でお使いください。

特番設定	
コールピックアップ	*81
グループピックアップ	**
指定ピックアップ	*80
パーク保留	保留 *90 応答 *91
外線キー応答	*92
音声呼出	*83
不在転送	*94
不応答転送	*95
話中転送	*96
外線着信転送の切替	*97
昼夜切替	*98
留守電の開始と停止	*99
留守電の再生	*84
回線閉塞の開始と停止	*87
着信おまたせの開始と停止	*86
システム特番	*82 *93 *85 *88 *89

設定する

特番は、任意の半角数字と半角記号(#、*)を3桁以内で設定します。

登録 取消 登録して再起動

(※画面の内容は、出荷時の設定です。)

- ★システム特番(出荷時の設定：*82 *93 *85 *88 *89)は、VR-7000のシステム内部で使用する特番です。登録した内線子機からダイヤルする番号ではありません。これらの番号をほかの特番や内線番号として使用したい場合には、重複しない番号に変更してください。

- 4 <登録>をクリックする

2 機能の割り当て

2. 共通設定について(つづき)

■グループ設定

「PBX設定」→「電話機設定(VP-701)」

VR-7000に子機として登録されたVP-701について、設定グループごとに電話帳やフレキシブルボタンを設定できます。

1 「PBX設定」メニューの「電話機設定(VP-701)」をクリックする

「電話機設定(VP-701)」画面を表示します。

2 「電話機のメンテナンス」項目で、設定グループ(1～20)を選択する

VP-701の外線保留をほかの電話機で応答する場合は、「設定グループ」は同じ設定にしてください。

電話機のメンテナンス

内線番号	機種	状態	グループ設定	全端末再起動
201	VP-701	接続済み	設定グループ1	再起動
202	VP-701	接続済み	設定グループ1	再起動
203	VP-701	接続済み	設定グループ1	再起動
301	VP-701	接続済み	設定グループ1	再起動
302	VP-701	接続済み	設定グループ1	再起動
401	TEL1	--	設定グループ1	再起動
501	TEL2	--	設定グループ1	再起動

登録 取消 登録して再起動

設定する

(※上図のように、VR-7000に登録した子機を一覧で表示します。)

3 「登録」をクリックする

「多機能電話の再起動が必要です。」が表示されます。

※VP-701が再起動するまで変更した設定内容は有効になりません。

2 機能の割り当て

2. 共通設定について(つづき)

■機種個別設定(VP-701)/着信音設定

「PBX設定」→「電話機設定(VP-701)」

内線、外線から着信したときに鳴る着信音のパターンや音量など、VR-7000に登録されたVP-701で共通に使用する設定です。

1 「PBX設定」メニューの「電話機設定(VP-701)」をクリックする

「電話機設定(VP-701)」画面を表示します。

2 [機種個別設定(VP-701)]項目で、VP-701の音量(受話側/送話側)を必要に応じて設定する

設定できる音量の範囲は、「-21」(最小音量)～「+21」(最大音量)(dB)です。

電話機設定	
設定グループの選択	共通設定
設定グループを変更	
機種個別設定(VP-701)	
受話音量	0 dB
送話音量	-6 dB
登録 取消 登録して再起動	

(※画面の内容は、出荷時の設定です。)

3 [着信音設定]項目で、VP-701に着信したときの着信音パターンを設定する

着信音パターンは、「着信音1」～「着信音7」、「着信音なし」から選択できます。

着信音設定	
外線A	着信音1
外線B	着信音2
外線C	着信音3
内線A	着信音5
内線B	着信音6
内線C	着信音7
デフォルト内線	着信音5
リコール	着信音4
登録 取消 登録して再起動	

(※画面の内容は、出荷時の設定です。)

※「着信設定」画面、または「簡単設定」メニューで設定された鳴り分け判別に応じて、「外線A～外線C」や「内線A～内線C」に設定した着信音が鳴ります。

たとえば、[鳴り分け判別]欄で「外線音A」に設定されている場合、VP-701に着信したとき「着信音1」が鳴ります。

通知番号で「外線」と判別されると「外線A」、「内線」と判別されると「内線A」に設定した着信音が鳴ります。

※ほかの内線子機から内線で着信した場合は、「デフォルト内線」に設定した着信音が鳴ります。

※パーク保留した電話機にリコール(再呼出)した場合は、「リコール」に設定した着信音が鳴ります。

4 <登録>をクリックする

※[電話機設定]項目の設定内容を変更した場合は、「多機能電話の再起動が必要です。」が表示されます。

※VP-701が再起動するまで変更した設定内容は有効になりません。

2 機能の割り当て

2. 共通設定について(つづき)

■電話帳設定

[PBX設定] → [電話帳設定]

VR-7000に登録されたVP-701で共用する電話帳です。

- 1 「PBX設定」メニューの「電話帳設定」をクリックする
「電話帳設定」画面を表示します。
- 2 [設定グループの選択]項目で、「共通」ボタン、または「設定グループ」ボタンをクリックする
選択した電話帳の登録内容を、[電話帳登録一覧]項目で確認、または編集できます。
- 3 [電話帳への登録]項目で、相手先の電話番号など設定して<登録>をクリックする
「多機能電話の再起動が必要です。」が表示されます。
※VP-701が再起動するまで変更した設定内容は有効になりません。

設定グループの選択

共通 1件	設定グループ 1 0件	設定グループ 2 0件	設定グループ 3 0件	設定グループ 4 0件	設定グループ 5 0件
	設定グループ 6 0件	設定グループ 7 0件	設定グループ 8 0件	設定グループ 9 0件	設定グループ 10 0件
	設定グループ 11 0件	設定グループ 12 0件	設定グループ 13 0件	設定グループ 14 0件	設定グループ 15 0件
	設定グループ 16 0件	設定グループ 17 0件	設定グループ 18 0件	設定グループ 19 0件	設定グループ 20 0件

共通電話帳(最大300件)はすべての多機能電話機に登録されます。
設定グループ1~20(最大100件)は各内線子機の多機能電話設定グループに対応して登録されます。

電話帳の保存と書き込み

保存したファイルを書き込む

CSV形式のファイルが書き込みできます。
ファイルを書き込むと、現在の設定は破棄されます。

ファイルに保存する phonebook.csvで保存されます。

電話帳への登録

番号	①	1
名前	②	
ヨミガナ	③	
電話番号	④	
短縮番号	⑤	
表示種別	⑥	電話番号
回線種別	⑦	外線
電話帳グループ	⑧	電話帳グループ1

短縮番号に緊急番号(110、118、119)等を設定するとその番号に発信できなくなりますのでご注意ください。
詳細は取扱説明書を参照してください。

電話帳登録一覧

番号	名前	ヨミガナ	電話番号	短縮番号	表示種別	回線種別	電話帳グループ
----	----	------	------	------	------	------	---------

(※上記の画面は、共通電話帳を選択している場合の表示例です。)

①番号

共通電話帳に最大300件、設定グループごとの電話帳に最大100件まで相手先電話番号が登録できます。

【VP-701の短縮番号について】

共通電話帳の番号(1~300)は、VP-701本体ではそのまま短縮番号になりますが、設定グループの電話帳の番号(1~100)は、「301」からはじめる短縮番号になります。

※「401」からはじまる短縮番号は、VP-701ごとに登録した個別電話帳です。

(※次ページにつづく)

2 機能の割り当て

2. 共通設定について

■電話帳設定(つづき)

[PBX設定] → [電話帳設定]

3

②名前

相手の名前を任意の全角15文字(半角30文字)以内で入力します。

③ヨミガナ

相手のヨミガナを任意の半角30文字以内で入力します。

※半角カタカナ、半角英数字が設定でき、全角カナは半角カタカナに変換されます。

※「ヨミガナ」が空白(何も設定していない)の場合、電話帳に登録できません。

④電話番号

電話機からダイヤルする電話番号を半角数字22桁以内で入力します。

⑤短縮番号

必要に応じて、短縮番号を半角数字7桁以内で入力します。

外線(IP回線/ISDN回線/アナログ電話回線)へ発信する、またはPeer to Peer(SIPサーバーを介さない1対1での通話)で発信する場合に使用できます。

※VR-7000の「ユーザー設定」画面(着信設定)の転送先番号(不在転送/不応答転送/話中転送)には、短縮番号を設定できません。

※特番、プレフィクスと短縮番号を組み合わせるとダイヤルできません。

【短縮ダイヤル機能について】

[短縮番号]欄に、緊急通報(110、118、119)、時報(117)や天気予報(177)など、「1」ではじまる3桁の番号を設定して、その番号をダイヤルすると、短縮番号発信が優先されるため、該当するサービスへ発信できないことがあります。

短縮ダイヤル機能は、特別な理由がない限り、「1」ではじまる3桁の番号を避けてご利用していただくことをおすすめします。

⑥表示種別

電話機に着信者の名前を表示させるとき、着信した相手の「短縮番号」、または「電話番号」のどちらを名前表示の識別に使用するかを選択します。
(出荷時の設定：電話番号)

⑦回線種別

電話帳に回線の捕捉方法(外線/内線)を登録すると、電話帳から電話をかけるとき、回線捕捉方法を指定する必要はありません。
(出荷時の設定：外線)

※回線種別を間違えて登録すると、発信できないことがありますのでご注意ください。

⑧電話帳グループ

必要に応じて、VP-701本体の電話帳をグループ分け(電話帳グループ1～電話帳グループ10)します。

(出荷時の設定：電話帳グループ1)

電話帳について

VP-701で使用できる電話帳は、VR-7000で設定する共通電話帳(最大300件)、設定グループ電話帳(最大100件)と、VP-701ごとに登録できる個別電話帳(最大599件)で構成されています。

VR-7000の電話帳を保存するときは

保存する電話帳を「設定グループの選択」項目で選択して、「電話帳の保存と書き込み」項目の〈保存〉をクリックします。

電話帳(共通/設定グループ)を更新したときは

「電話機設定(VP-701)」画面の〈再起動〉をクリックして、VP-701を再起動させ、変更した内容を更新してください。

2種類の短縮番号機能について

◎[番号]欄に割り当てた番号(3桁)をダイヤルし、最後の番号を1秒以上長押しすると、登録した電話番号に電話をかけます。

外線/外線どちらにでも発信できますが、利用できる電話機はVP-701だけです。(※P14、P35)

◎[短縮番号]欄に割り当てた番号をダイヤルすると、登録した電話番号に電話をかけます。

外線(IP回線/ISDN回線/アナログ電話回線)へ発信する、またはPeer to Peer(SIPサーバーを介さない1対1での通話)で発信する場合に使用でき、VP-701以外の電話機からでも操作できます。

2 機能の割り当て

3. グループ別設定について

VR-7000の子機として登録する内線電話について、設定グループごとに設定します。

■機種共通設定/機種個別設定(VP-701)

「PBX設定」→「電話機設定(VP-701)」

設定グループごとに、外線捕捉範囲と〈外線キー〉などを設定します。

1 「PBX設定」メニューの「電話機設定(VP-701)」をクリックする

「電話機設定(VP-701)」画面を表示します。

2 「設定グループの選択」欄で、設定する設定グループを選択し、〈設定グループを変更〉をクリックする

「電話機設定(VP-701)」画面の設定項目が切り替わります。

3 「機種共通設定」項目で、同一設定グループ内のピックアップ対象、発信規制を必要に応じて設定する

電話機設定	
設定グループの選択	設定グループ1
機種共通設定	
ピックアップグループ番号 ①	01
コールピックアップ対象 ②	内線のみ
グループピックアップ対象 ③	外線/内線
指定ピックアップ対象 ④	外線/内線
発信規制 ⑤	無効
機種個別設定(VP-701)	
ダイヤル待ち時間	5 秒

(※上図は、[設定グループの選択]欄で「設定グループ1」を選択したときの画面です。)

①ピックアップグループ番号

設定グループへの着信を代理応答するとき使用するピックアップグループ番号を半角数字7桁以内で入力します。

(出荷時の設定：01(設定グループ1の場合))

※グループピックアップ特番(出荷時の設定：**)につづけて、この欄で設定した番号をダイヤルすると、指定した設定グループへの着信に代理応答できます。

②コールピックアップ対象

ほかの内線子機への呼び出しについて、応答できる対象を、「外線/内線」、「外線のみ」、「内線のみ」(下記参照)から設定します。

(出荷時の設定：内線のみ)

③グループピックアップ対象

同じ設定グループのほかの子機への呼び出しについて、応答できる対象を、「外線/内線」、「外線のみ」、「内線のみ」(下記参照)から設定します。

(出荷時の設定：外線/内線)

④指定ピックアップ対象

指定の内線子機への呼び出しについて、応答できる対象を、「外線/内線」、「外線のみ」、「内線のみ」(下記参照)から設定します。

(出荷時の設定：外線/内線)

⑤発信規制

外線への発信規制を、「無効」、「発信規制ルール1～16」、「外線発信規制」から設定します。(出荷時の設定：無効)

※発信規制ルールを選択した場合は、「番号計画」画面で設定した内容にしたがいます。

各ピックアップで応答できる対象について

◎**外線/内線**：内線着信(Peer to Peer着信を含む)と外線着信(IP回線/ISDN回線/アナログ電話回線からの着信)をコールピックアップの対象とします。

◎**外線のみ**：外線着信(IP回線/ISDN回線/アナログ電話回線からの着信)だけをコールピックアップの対象とします。

◎**内線のみ**：内線着信(Peer to Peer着信を含む)だけをコールピックアップの対象とします。

※「着信設定」画面、または「簡単設定」メニューにある「鳴り分け判別」欄を内線(内線A～内線C)に設定している回線(IP回線/ISDN回線/アナログ電話回線)からの着信は内線として扱われます。

2 機能の割り当て

3. グループ別設定について

■機種共通設定/機種個別設定(VP-701) (つづき)

「PBX設定」→「電話機設定(VP-701)」

4 外線捕捉範囲(外線キー設定範囲)などを必要に応じて設定する

VR-7000の出荷時、捕捉範囲は「1～24」のフレキシブルボタン番号に設定されています。
空いている回線を自動的に捕捉するために、〈外線キー〉の設定範囲を指定します。

発信規制		無効			
機種個別設定(VP-701)					
ダイヤル待ち時間	①	5 秒			
外線発信キー	②	0			
外線捕捉範囲	③	1 ~ 24			
オフフック回線捕捉	④	<input checked="" type="radio"/> 内線 <input type="radio"/> 外線			
オフフック外線応答	⑤	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効			
着信優先順位	⑥	<input checked="" type="radio"/> 内線優先 <input type="radio"/> 外線優先			
外線通話中の内線着信	⑦	<input checked="" type="radio"/> 拒否 <input type="radio"/> 許可			
代理応答キー動作	⑧	<input type="radio"/> コールピックアップ <input checked="" type="radio"/> グループピックアップ			
長時間保留の監視時間	⑨	180 秒			
電話帳[共通]の利用	⑩	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効			
ボタン割当					
ボタン1	ボタン2	ボタン3	ボタン4	ボタン5	ボタン6

(※上図は、[設定グループの選択]欄で「設定グループ1」を選択したときの画面です。)

①ダイヤル待ち時間

ダイヤル操作を終了してから発信開始までの時間を設定します。

設定できる範囲は、「1」～「60」(秒)です。

(出荷時の設定：5)

※ダイヤル操作中、設定した時間を過ぎても操作がないときは、発信を開始しますのでご注意ください。

②外線発信キー

空いている回線を自動的に捕捉して外線に電話をかけるための番号を「0」～「9」、「*」、「#」から選択します。

(出荷時の設定：0)

③外線捕捉範囲

空いている回線を自動的に捕捉して外線に電話をかけるために、〈外線キー〉の設定範囲を「1」～「24」から選択します。

(出荷時の設定：1～24)

④オフフック回線捕捉

受話器を上げて、ダイヤルしたとき、発信先(内線/外線)を設定します。

(出荷時の設定：内線)

○内線：受話器を上げたときに内線発信音(ツーツー)が聞こえ、ダイヤルした内線番号の内線子機を呼び出します。

○外線：受話器を上げたとき、[外線捕捉範囲] (③)欄で設定した空いている回線を自動的に捕捉します。

⑤オフフック外線応答

「有効」を設定すると、外線から電話がかかってきたときに受話器を上げるだけで応答できます。(出荷時の設定：有効)

⑥着信優先順位

「外線優先」を設定すると、外線からの電話を優先して内線子機に着信させます。

(出荷時の設定：内線優先)

※外線からの電話は、ディスプレイに「着信中(キー番号)」を表示して、使用している回線を確認できます。

⑦外線通話中の内線着信

外線通話中の内線着信(Peer to Peer着信を含む)に対する動作を設定します。

(出荷時の設定：拒否)

「拒否」を設定すると、外線通話時に内線着信を拒否(話中応答)します。

⑧代理応答キー動作

〈代理応答〉を操作したときの動作について設定します。

(出荷時の設定：グループピックアップ)

「グループピックアップ」を設定すると、同じ設定グループに登録した子機への着信に対して代理応答できます。

2 機能の割り当て

3. グループ別設定について

■機種共通設定/機種個別設定(VP-701)(つづき)

「PBX設定」→「電話機設定(VP-701)」

4 ⑨長時間保留の監視時間

設定した時間を超えて自己保留をすると、警告音(プププ)を鳴らします。

設定できる範囲は、「30～1800」(秒)です。

(出荷時の設定：180)

⑩電話帳[共通]の利用

VP-701が再起動されたときに、本製品の共通電話帳の内容をVP-701本体の電話帳に反映するかどうかの設定です。

(出荷時の設定：有効)

「無効」に設定すると、VP-701が再起動されても、VP-701本体の電話帳に反映されません。

5 [ボタン割当]欄で、〈外線キー〉など必要に応じて、フレキシブルボタンごとに機能を割り当てる

電話帳[共通]の利用		ボタン割当					
<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効		ボタン1	ボタン2	ボタン3	ボタン4	ボタン5	ボタン6
ワンタッチ		ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ
外線キー		ボタン8	ボタン9	ボタン10	ボタン11	ボタン12	ワンタッチ
パーク		ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ
留守電設定通知		ボタン14	ボタン15	ボタン16	ボタン17	ボタン18	ワンタッチ
留守電通知		ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ
着信おまたせ通知		ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ
不在転送通知		ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ
応答転送通知		ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ
話中転送通知		ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ
昼夜切替通知		ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ
外線着信転送通知		ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ
音声呼出		ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ
未使用		ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ

登録 取消 登録して再起動

〈外線キー〉、〈パーク〉、〈昼夜切替通知〉、〈外線着信転送通知〉を選択したときは、下部に詳細な設定項目が表示されます。

※〈ワンタッチ〉をフレキシブルボタンに割り当てたときは、VP-701本体で詳細な設定をします。(※P15)

ボタン1
外線キー
0312345678 (IP)

外線キー

「電話回線設定」メニューで設定した回線(IP回線/ISDN回線/アナログ電話回線)の電話番号、または回線グループを選択します。

ボタン4
パーク
パーク1

パーク

パーク保留・応答時に使用するパーク番号(1～24)を選択します。

ボタン12
昼夜切替通知
外線サービスグループ1

昼夜切替通知

昼間か夜間かを確認する外線サービスグループ(1～8)を選択します。

ボタン13
外線着信転送通知
0312345670 (IP)

外線着信転送通知

外線からの着信を転送する機能が設定されているか確認する回線(電話番号)を選択します。

※外線着信転送通知を割り当てたフレキシブルボタン番号(01～24)は、外線着信転送機能を切り替えるときに使用します。(※P45)

2 機能の割り当て

3. グループ別設定について

■機種共通設定/機種個別設定(VP-701) (つづき)

「PBX設定」→「電話機設定(VP-701)」

6 <登録>をクリックする

「多機能電話の再起動が必要です。」が表示されます。

※VP-701が再起動するまで変更した設定内容は有効になりません。

回線グループ機能について

回線グループを割り当てた<外線キー>を押して発信すると、その回線グループに登録した複数の回線(電話番号)から、空いている回線を自動的に捕捉できます。

※「電話回線設定」メニューの「回線グループ設定」画面で、回線グループを設定できます。

※回線グループに登録できるのは、同じ回線種別だけです。

※回線グループに登録した回線(電話番号)は、単独で<外線キー>に割り当てられません。

2 機能の割り当て

4. 子機別設定について

VR-7000の子機として登録する内線電話の留守電ボックスについて設定します。

■内線設定

[PBX設定] → [内線個別設定]

VR-7000に登録された内線子機ごとに、使用する留守電ボックスを変更できます。（出荷時の設定:ボックス1）
※留守番電話機能を使用する場合は、あらかじめ「基本設定」画面で、[留守番電話機能]欄を「有効」に設定する必要があります。

1 [PBX設定]メニューの「内線個別設定」をクリックする

「内線個別設定」画面を表示します。

2 [内線設定一覧]項目で、編集する内線子機の右欄に表示された〈編集〉をクリックする

[内線設定]項目を表示します。

3 [留守電ボックス]欄でボックス番号(1～3)を設定する

※留守番電話機能で使用する回線(電話番号)ごとのボックス番号は、「ユーザー設定」画面(留守電ボックス設定)で指定します。

内線設定	
機種	VP-701
番号	2
名前	
内線番号	201
パスワード	
優先度	IP回線⇒ISDN回線
IP回線	回線グループ1
ISDN回線	0312345677
アナログ回線	捕捉しない
Peer to Peer	捕捉しない
留守電ボックス	ボックス2
WAN側からの接続	禁止

登録 取消 登録して再起動

設定する

(※画面の内容は、登録例です。)

4 〈登録〉をクリックする

留守番電話機能を使用する回線(電話番号)を設定するには、使用する回線ごとの留守電ボックスを、VR-7000の「ユーザー設定」画面で登録できます。

①パソコンから、VR-7000の「ユーザー設定」画面にアクセスして、内線子機に設定された内線番号(ユーザーID)とパスワードを入力して、〈ログイン〉をクリックする

②回線(電話番号)ごとに、留守番電話機能で使用するボックス番号を選択して、〈設定〉を押す

※「ユーザー設定」画面について詳しくは、弊社ホームページに掲載のユーザー設定画面マニュアル(PDFファイル)をご覧ください。

ひとつ上へ戻る

回線	使用するボックス
03 (IP)	ボックス1
03 (ISDN)	ボックス2

設定項目	ボックス1
留守番電話状態	<input checked="" type="radio"/> 開始 <input type="radio"/> 停止
留守番電話の応答時間(開始状態)	9 秒
留守番電話の応答時間(停止状態)	
応答専用モード	
応答専用メッセージ	
留守電保存件数	15 件

設定 クリックする

(※画面の内容は、設定例です。)

この章では、
困ったときの対処法、仕様などを説明しています。

1. こんなときは	43
■ 外線通話中に内線から着信したときは	43
■ 着信拒否機能が有効なときは	43
■ 話中転送を設定したときは	43
■ ワンタッチや音声呼出に設定されているボタンを確認するときは	43
2. フレキシブルボタンのランプ表示について	44
3. 特番操作について	45


【フレキシブルボタンについて】

弊社製VoIP機器により、内線電話で使用できる機能や電話操作が、VP-701取扱説明書の記載内容と異なりますので、VR-7000でVP-701をご使用になる場合は、本書にてフレキシブルボタンに割り当てられる機能やランプ表示をご確認ください。

1. こんなときは

■ 外線通話中に内線から着信したときは

外線通話中の内線着信動作の優先順位は、下記ようになります。

1. 不在転送 (☎P25)
2. 話中転送 (☎P27)
3. 外線通話中の内線着信 (☎P37)
4. VP-701本体の〈着信拒否〉を押して、待受画面の右上に  が表示されているとき
5. VP-701本体に登録された着信拒否電話番号
(待受画面▶〈メニュー〉▶[9]▶[1]▶[1]▶[1])
6. 不応答転送 (☎P26)

■ 着信拒否機能が有効なときは

相手先が内線と外線で、下記のようにVP-701の動作が異なります。

回線	着信元	相手先
内線	待受画面表示のまま	話中音が流れ、切断されます
外線	待受画面表示のまま 無鳴動 〈外線キー〉高速点滅(赤)	呼出音が流れます

■ 話中転送を設定したときは

内線で通話中に、ほかの電話機から内線着信したときだけ、設定した転送先へ転送します。

※内線で通話中の外線着信や外線通話中の内線・外線着信では動作しません。

■ ワンタッチや音声呼出に設定されているボタンを確認するときは

待受画面▶〈メニュー〉▶[9]▶[1]▶[2]を押すと、フレキシブルボタン設定画面で各キーの機能の割り当てを確認できます。

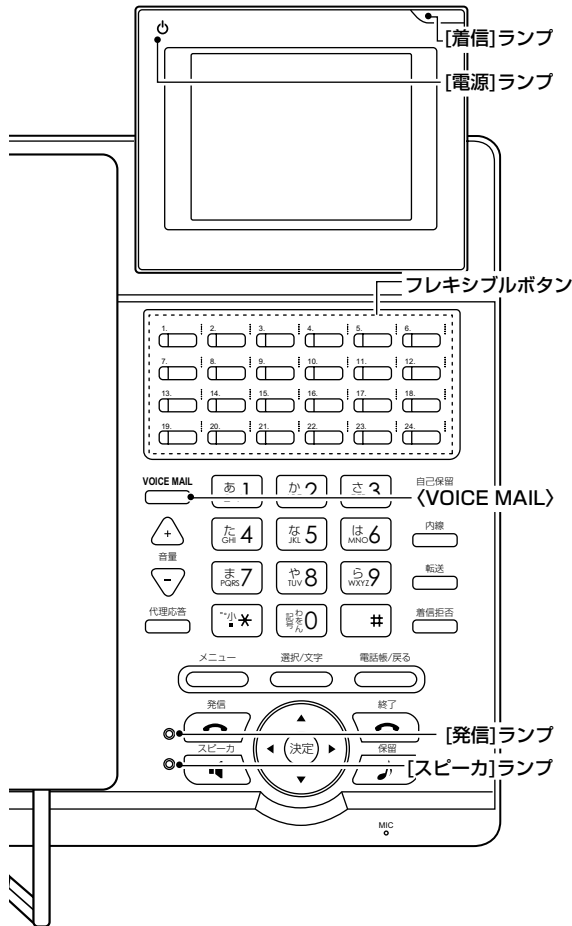
VR-7000側の設定	VP-701側の表示
ワンタッチ	ワンタッチ
外線キー	外線
パーク(1~24)	パーク
留守電設定通知	外線
留守電通知	外線
着信おませ通知	外線
不在転送通知	外線
不応答転送通知	外線
話中転送通知	外線
昼夜切替通知	外線
外線着信転送通知	外線
音声呼出	音声呼出
未使用	なし

※VR-7000側で通知機能を割り当てられたフレキシブルボタンを押しても、何も操作できません。

※VP-701で表示されるキー番号(☎P15)は、VR-7000側ではフレキシブルボタン番号(☎P39)となります。

2. フレキシブルボタンのランプ表示について

VP-701のフレキシブルボタン設定については、本書39ページでご確認ください。



〈パーク〉	
低速点滅(緑)	パーク保留時
低速点滅(赤)	ほかの電話機でパーク保留時
〈外線キー〉	
高速点滅(赤)	外線着信時
低速点滅(緑)	外線保留時
高速点滅(緑)	リコール時(外線保留/転送時)
低速点滅(赤)	ほかの電話機で外線保留時
点灯(緑)	外線使用時(通話中)
点灯(赤)	ほかの電話機で外線使用時 回線閉塞時

下記のキー機能が動作すると、赤点灯します。

〈留守電設定通知〉	留守番電話開始時(下記参照)
〈留守電通知〉	新着メッセージがある場合
〈着信おまたせ通知〉	着信おまたせ開始時
〈不在転送通知〉	不在転送開始時
〈不応答転送通知〉	不応答転送開始時
〈話中転送通知〉	話中転送開始時
〈昼夜切替通知〉	指定の外線サービスグループが 夜間の場合

※通知機能を割り当てられたフレキシブルボタンを押しても、何も操作できません。

外線から着信したときは

自分の電話機に割り当てられている外線番号に着信すると、[着信]ランプが点滅(赤)して、〈外線キー〉は高速点滅(赤)になります。

ほかの電話機に割り当てられている外線番号に着信した場合は、〈外線キー〉だけ高速点滅(赤)します。

また、VP-701本体の着信音設定をレベル0にしている、または外線着信時に電話機が鳴動ないようにVR-7000側で設定している場合は、〈外線キー〉だけ高速点滅(赤)します。

VP-701のボイスメール機能について

出荷時、VP-701のボイスメール機能は「無効」に設定されていますので、〈VOICE MAIL〉を押しても点灯しません。

ご利用される場合は、あらかじめVP-701の管理者設定画面で設定を変更してください。(※別紙の「VP-701取扱説明書」)

※一斉着信時にボイスメール機能を設定した電話機があると、ボイスメールで応答するため、ほかの電話機に着信しません。

※留守番電話開始時(※P45)にボイスメール機能を設定した電話機があると、ボイスメールで応答するため、VR-7000の留守電ボックスにメッセージが保存されませんので、ご注意ください。

3. 特番操作について

VR-7000側で設定された特番をダイヤルすると、下記の機能を操作できます。

※VP-701のフレキシブルボタン設定(キー番号)については、本書39ページでご確認ください。

※■は、VP-701のフレキシブルボタンでも操作できる機能です。

機能	キー操作	備考
コールピックアップ	「*81」	
グループピックアップ	所属する設定グループの場合 「*」 設定グループを指定する場合 「*」+「01～20」(ピックアップグループ番号)	ピックアップできる対象(内線/外線)は、VR-7000の管理者用設定画面(電話機設定)で、設定グループごとに指定します。
指定ピックアップ	「*80」+内線番号	
パーク保留	「*90」+「01～24」(パーク番号)	
パーク応答	「*91」+「01～24」(パーク保留したパーク番号)	
外線キー応答	「*92」+「01～24」(外線保留した<外線キー>のキー番号*1)	
音声呼出	「*83」+内線番号	VP-701、KX-UTシリーズ以外の内線子機には、音声呼び出しできません。
不在転送*2	「*94」	内線子機ごとの転送先は、VR-7000の「ユーザー設定」画面(着信設定)で指定します。
不応答転送*2	「*95」	
話中転送*2	「*96」	
外線着信転送の切替*2	「*97」+「01～24」(外線着信転送通知を割り当てたフレキシブルボタン番号)	外線(電話番号)ごとの転送先は、VR-7000の「ユーザー設定」画面(外線着信転送設定)で指定します。
昼夜切替*2	一括して切り替える場合 「*98」 外線サービスグループを指定する場合 「*98」+「01～08」(外線サービスグループ番号)	外線(電話番号)が所属するグループや夜間転送先は、VR-7000の管理者用設定画面(外線サービスグループ/夜間転送先設定)で指定します。*5
留守電の開始と停止*2*3	所属する留守電ボックスの場合 「*99」 留守電ボックス番号を指定する場合 「*99」+「1～3」(ボックス番号)	内線子機が所属する留守電ボックス番号はVR-7000の管理者用設定画面(簡単設定/内線個別設定)、外線(電話番号)ごとのボックス番号はVR-7000の「ユーザー設定」画面(留守電ボックス設定)で指定します。
留守電の再生*4	「*84」+「0」+「1～3」(ボックス番号)	
回線閉塞の開始と停止	「*87」+「01～24」(<外線キー>のキー番号*1)	
着信おまたせの開始と停止	「*86」	外線(電話番号)ごとの着信おまたせパターンはVR-7000の「ユーザー設定」画面(着信おまたせ設定)で指定します。

★1 VP-701で表示されるキー番号(☞P15)は、VR-7000側ではフレキシブルボタン番号(☞P39)となります。

★2 VR-7000の「ユーザー設定」画面でも、各機能を切り替えられます。

操作については、別紙の「ユーザー設定画面マニュアル」をご覧ください。

※VP-701のフレキシブルボタンには、各機能の動作状態を確認できる機能を割り当てられます。

★3 この機能を使用するときは、VR-7000の管理者用「基本設定」画面で、「留守番電話機能」欄を「有効」に設定する必要があります。

★4 留守番電話操作メニューの詳細については、別紙の「ユーザー設定画面マニュアル」に記載の留守番電話操作一覧をご覧ください。

★5 夜間転送先として「外線」を設定した場合は、VR-7000の「ユーザー設定」画面(外線着信転送設定)で指定した電話番号へ転送します。

高品質がテーマです。

